

地 域 の 物 語
アーカイブプロジェクト
2016

生と性をめぐる
ささやかな冒険

世田谷パブリックシアター

地 域 の 物 語
アーカイブプロジェクト
2016

生と性をめぐる
ささやかな冒険

世田谷パブリックシアター

はじめに

本書は、世田谷パブリックシアターで二〇一六年に実施した演劇ワークショップ『地域の物語』から展開した「生と性をめぐるささやかな冒険」〈女性編〉〈男性編〉のアーカイブプロジェクトとして、参加した二十代〜七十代の、生や性にまつわる体験、記憶、思いを語ったこえを、主に次の二つの方法で集めたものである。

まず、ワークショップの場で語られたこえを（録音などを活用しながら）文字起こしたものの、次に、同様に語られたこえを、一人あるいは複数の聞き手が書き起こしたものである。後者は、文末に「聞き手」の名前を入れた。

冊子化にあたり、原稿ごとに表記を統一し、部分的に語り手、書き手、双方の了解を得て修正した。注釈は、本冊子がアーカイブプロジェクトである趣旨に基づき、現在の社会において共有される文化・社会的事象に付けた。

目次

はじめに 世田谷パブリックシアター

9 生と性をめぐるささやかな冒険（女性編）

- 10 恋をしている女は信用できない なお 書き手Ⅱまなみ
- 12 肉親以外の女の人は信頼できるようになった いけまな 書き手Ⅱポラン
- 14 どこで区別つけるんだろう くりちゃん 書き手Ⅱまろこ
- 18 ギラギラ キラキラ ハラハラ オロオロ ウロウロ メソメソ ボロボロ ともちゃん 書き手Ⅱせつ
- 20 きみ、ヘリング先生の授業をとっているの？ そのひと声で恋に落ちました。 ポラン 書き手Ⅱいけまな
- 24 ファンタジーな気分 せつ 書き手Ⅱともちゃん
- 26 美しいものが好き さいとー 書き手Ⅱたまちゃん
- 28 おしゃれしたい！ さいとー
- 30 どうしてワークショップに参加したのか、タイムリーと思って まなみ 書き手Ⅱなお
- 32 あんな、綺麗な色。 みほ 書き手Ⅱたまちゃん
- 35 自分のことは置き去りにしたまま みほ
- 36 見え方は刻々変わる みほ 書き手Ⅱたまちゃん
- 38 私にとっての呪（しゅ） さき 書き手Ⅱナオコ

- 40 自分の気持ちはないのかって かよこ 書き手Ⅱめぐちゃん&いまむー
- 42 負のスパイラルを断ち切る チャコ 書き手Ⅱいまむー
- 44 自分の人生は自分でやっていこう ニケ 書き手Ⅱなかちゃん
- 46 なんて「こだけの話」って言うのか まろこ 書き手Ⅱくりちゃん
- 48 備えて、備えて、旅に出る。 ゆきこ 書き手Ⅱたまちゃん
- 54 ママ友の中におっさんが一人で入っていく感じ ナオコ 書き手Ⅱチャコ
- 60 心は自由に ナオコ 書き手Ⅱさき
- 62 自分の生きかたを選べる社会になるように なかちゃん
- 63 私の中の小さな私 なかちゃん
- 64 はじめてのブラジャー かよこ
- 65 はじめてのブラジャー めぐちゃん
- 66 とおちゃんかあちゃんを、強く想って よっしー 書き手Ⅱまろこ
- 68 置き去りにしてきたものがあつたのかな よっしー 書き手Ⅱいけまな
- 72 私のとなりにいる人は よっしー 書き手Ⅱふくちゃん
- 75 全ての時間に満足して よっしー 書き手Ⅱポラン
- 77 女手ひとつで二人の息子を育てあげた大きな愛情 よっしー 書き手Ⅱチャコ
- 79 はじめての生理 よっしー

生と性をめぐるささやかな冒険〈男性編〉

- 82 ただの人、である自分 けん
- 83 好奇心が止まらない しげもり
- 84 子供が生まれる直前、直後の話 やまも
- 86 おじさんがんばります 吉田
- 87 演劇家を名乗る かっしー
- 88 ある日、意を決して かっしー
- 90 人類の半分はいないようなもの ジェリー
- 92 六五歳まで大丈夫かなあ ジェリー
- 94 女性のことがわからない たんぼ
- 96 よくわからない しら
- 97 いまだにわからない にらだい
- 98 嫉妬とはなんでしょうか てるぼ
- 99 男のクセに すみた
- 100 父親が郵便局員でした たばた
- 101 アリとキリギリス タニー

- 103 本当にお願ひしたいんです タニー
- 106 決定的な想像力の欠如 オカさん
- 109 男であるということから逃れることができない ジャスミン
- 112 自分のポジション せつきー 書き手Ⅱしげもり
- 114 セクシャリティと役者は切り離さない せつきー 書き手Ⅱわつつ
- 116 人のありようとして、自然な私たち せつきー 書き手Ⅱやまも
- 118 “男性”も簡単じゃないんです せつきー 書き手Ⅱジャスミン
- 123 女形はやらないで せつきー 書き手Ⅱジェリー
- 124 私にやれるおばさん せつきー 書き手Ⅱかっしー
- 125 一人一人ちがうけど、みんな大切な存在！ せつきー 書き手Ⅱ祝大輔
- 131 あら、しかたないわ きいちゃん
- 132 いろんなセックスがある せつきー

おわりに 恵志美奈子（世田谷パブリックシアター劇場部学芸）

生と性をめぐるささやかな冒険

〈女性編〉

恋をしている女は信用できない

なお

なにから話せばいいかなあ……昨日考えついたのが……高校生の時、女の子（A）から告白されて。思ってたのと違う!! と思つて。共学だけど、男の子はひとクラスにひとりかふたりしかいないようなところだったから、この高校じゃ恋愛はできないと思つて。恋愛というのは男の子から告白をされるんだと思つてたけど、まさか女の子から告白されると思わなくて、「女の子が、私に……??」。

思い返してみれば、同じ演劇部で、その告白してきた女の子が急に部活に来なくなったり、急に仕事してくれなくなつて。なんだこいつ。なんで? なんで? つてなつて。（私は）部長みたいな立場だったから、意味わかんない、やだなあ、つて怒つてた。そしたら、その子から告白されて……「あーめんどくさい」。いまだに恋愛するっていうのがピンとこないんだよね。告白されたからにはお返事をしなければいけなかったの。向こうからもメールで催促されるし。

「友達として見てたから……（なに言つてんだ、私）」「ちょっとわかんない」「ふつーに人として好きだし」と言つてた。

（A）はその頃、別の女の子（B）と仲がよくて、そのふたりは「恋愛ごっこしたーい」「彼氏ほしい」みたいな人たちだったから、（A）が女の子が好きで悩んだ、というわけじゃなかったのは、（私は）

わかつてた。そしたら（B）がメールのやりとりから（発展して）ネットいじめとかやりはじめて。ブログにイニシャルで悪口とか書いて。別の友達からそれを教えてもらつて見て、「これ私!?」つて。でもそんなに深刻ではなくて「こんなのほんとにあるんだ!!」みたいな、ちょっと他人事のような、心の余裕はあつた。いやっちゃいやだけど。

ほんとーに、女の子って、恋愛絡むとめんどくさいんだな。そーゆー女にはなりたくない。未だに、恋とかすると、ああなっちゃうのはいやだなと思う。大人になつても、めんどくさい奴はめんどろ。

（私は）男の人のほうが女の子と話すより話しやすいほうだけど、それで嫉妬されやすい。友達（女）が彼氏と私を会わせると、（彼氏と私が）話が合っちゃつて、女がポエムで（私を）罵るとかあつた。そーなると、「あーごめんごめん、仲良くしすぎた（苦笑）」みたいな。

嫉妬とかつて、男の人にもあるのかなあ。（女友達に）「嫉妬」とか、「うわあ（男を）とられる」みたいなのはメスの本能だ、という言いわけされるけど、ヒトなんだから、もーちよつとうまくできないのか……。

女の人と仲良くなると警戒する。いい人だけど「恋愛したら変わっちゃうんだろーな」つて。まきこまれる、そーゆーポジショニングなのかも。「恋愛してます」つて札を首にかけといてはしーよね!! そーゆー気持ち（嫉妬とか）になるほど人を好きになるつてどういうこと? 「ちよつと、わかるように説明して（笑）」と思う。

書き手〓まなみ

肉親以外の女の人は信頼できるようになった

いけまな

物心ついたときから、男の子女の子を意識していた。

小一るとき越してきたはるみちゃん、ひとりっこのお金持ちで、私を支配しようとしたの。塀の上で歩く遊びをさせようとしたり、おばけが大きい、コンニャクおばけのイラストを見せられたりするのがいやだった。

だけど私は男の子の遊びも苦手、プラスチックの輪っかをつなげたりする無難な遊びが好きだった。その子は家にも来て、私の四つ下の妹と一緒にいじめさせられた。

妹とは今も気が合わない。妹は私をまねして、越えていった。

母は田舎のお嬢様で、家事もできないし、センスもダメで、他の人は自分の思い通りになると思っている。ホームに入っている父のお見舞いに、家族みんなで行こうとして計画を立てていたときも、当日の朝になって、「やっぱりみんなで行かないほうがいい」と言いだしたりするの。

女子とはうまくいっていなかったのに、中高一貫の女子校に入っちゃって、演劇部では、「呼び出し」とかやっていた。大学は共学で、演劇サークルに入って、一八歳から二三歳まで怖いものなしという感じ。歌舞伎町のカラオケパブやキャバクラへ面接に行って、カラオケパブでは一年くらい働いた。キャバ

クラは売れっ子のいじめがひどくて、一週間でやめたけど。あと私服デーがいやだった。

父は女子校の先生なの。

子育てしているとき、子供を見た女の人から「かわいいわね」って言われると、「それどころじゃない」思った。

ふたり目の妊娠中、旦那さんが帰ってこなくなると、私、公園で泣いちゃうのね。子供遊ばせているとき。そんなとき、いいと思った。だって聞いてくれるんだもん。女の人が。「悪いパパだね」って言って。今は女の友達と一緒に旅行に行ってみたい。あと、この「地域の物語」の参加者のみんなと共同生活している夢見た。

肉親への気持ちは変わっていない。妹はメールにダメ出ししてくるし。

「はつきり言って、あいさつ文がないのでひきました」ってきたときもある。

肉親に対しては、信頼していない。

P.T.A.をきっかけに仲良くなった人や、少年サッカークラブのママたちとは飲みに行く。

書き手 〓 ポラン

どこで区別つけるんだろう

くりちゃん

「私は男女の区別がつかない」っていうハナシです。

別に今、見た目に区別がついてるか、ついてないかって話じゃなくて。なんか精神的とかそういう意味で区別がつかないっていう意味なんです。

女子高にいたっていうのもあると思うんですよ。みんな見た目は女子なんですけど、男子がいないのに男子にコビを売る系の行き過ぎた女子もいて、いろいろあるじゃないですか。男の子みたいな女の子も、普通に女の子って感じの子も、すごいハンパな子もいて、って世界にいたから。

入った時はみんな女の子っぽいんですよ。でもどんだんどんぬける子はぬけてっちゃうんですよ、女子が。かわいくしなきゃってのがないから。リーダーも必要だから、しっかりしなきゃいけない子もいて、その子は男の子っぽくなったり。

大学で共学になったんですけど、考え方が女の子っぽい男の子もいるし、逆におい、オレの筋肉見るよって男の子もいて。

あれ？ みんな同じもの持ってるんじゃない？ って。どこで区別つけるんだろう。でも区別は、なんかつけたほうが簡単に物事は進むんじゃないかな。仕事とか。でも本当はつけられないんじゃないかっ

て思うんですよ。見た目はつくじゃないですか、身体とか。でも身体を無視したら、わからなくなるんじゃないかな。

恋愛も同じで。区別がつかないから、どっちと付き合っても同じなんじゃないかって、わかんないなーって。女子高だったから、告白してくる子とかいるんですよ。付き合いました。結局、自然消滅したんですけど。今は友だちとして仲良くしてます。

今、私は彼氏さんがいるんですけど、だから、私はどっちでもOKだよって人なんですけど。性交渉って観点から考えると、異性のほうがいいなって思うんですけど。分かり合えるかっていうと、女子のほうがわかってくれると思うし、どっちもどっちっていうか、どっちもいい。

流されるタイプらしくて、告白されたいいよって言うけど、自分からは全く言わない。他人に対していつも好意はあるので。今の彼氏さんとはそんな感じですよ。人間として好きだったんですよ。根本的なところで言っちゃうと。

皆さんが言っている好きと、もしかしたら距離感があるのかもしれないって。

私は多分人間として付き合いたいか、付き合いたくないか、以上！で終わっちゃってるんですよ。二分したなかに、さらにピラミッドがあるって感じなのかな。

これからセックスがあるとしたら、実態を、セックスというものを知らないから。ものすごく怖いと思うんですよ。

今までは人として付き合いたいと思ってた。そこにもしそれが入ったら、新しい枠組みができちゃ

うんじゃないか。

もしそうだったら、そういう関係にはなりたくないって、言っちゃうかもしれないです。スキって
なんなんでしょうね。

流れで付き合っちゃったんで。

書き手 || まちこ

ギラギラ キラキラ ハラハラ オロオロ ウロウロ
メソメソ ボロボロ

ともちゃん

一九九〇年頃、ひとりでニューヨークに行ったの。

明治大学の職員として九年間働きながら、芝居やったり音楽やったりいろいろやっていただけ、一番やりたいことはなんなの？ なんでひとつにまとまらないの？ って周りから言われて、押さえつけられるような気持ちになって、日本がいやになってニューヨークにひとりで行ったの。当時のニューヨークはキューバからの移民やロシア系の移民、人種のるつぼだった。女子美出身の友人がマンハッタンのマジソンスクウェアガーデンのそばに住んでね。

ステップス（ニューヨークのダンス学校）ではジャズダンスやフラメンコやクラシックバレエを習って、ABCストウディオではメイクの勉強をしたのよ。

フラメンコとジャズダンスのクラスに出て、ユダヤ系の移民だと思っただけど、ヴィクトリオっていうダンスインストラクターがすごくフレンドリーで好きになりました。

英語も教えてくれて、生理という意味の「period」という言葉も教えてくれた。はじめて引きずり込みたい、ひとりじめしたいという気持ちになって、当時、ヴィクトリオの周りにいる女に嫉妬した。ギラギラ キラキラ ハラハラ オロオロ ウロウロ メソメソ ボロボロ した感じ。地球の周り

にメラメラしたエアーがとりまいてる感じ。嫉妬している時、自分は生きているって感じがした。自分にもこんな感情があるんだって、引き出しがあるんだって嬉しかった。

当時三八歳で日本にパートナーのたっちゃんがいる、国際電話で「どうしよう……どうしよう……」って電話して、お金もスッカスカでなかったし、ビザのことあつて、いろいろ背負ってるものもあつて。聞いてくれてパートナーが「帰ってきなさい。できるだけサポートするから」って言うてくれて。私は日本を選んでるんだって思ってた。ヴィクトリオも、もう少しいられないのか？ って引きとめたし、周りの人もともこはこっちのが向いてるって言ってただけだね。

書き手 〓 せつ

きみ、ヘリング先生の授業をとっているの？
そのひと声で恋に落ちました。

ポラン

大学三〜四年生の時、資格を取れる授業に出席しまくっていた。

図書館学の授業中、ひとつうしろの席から突然ささやかれた、

「きみ、ヘリング先生の授業を取っているの？」

その、彼の素敵な声で呼びかけられた瞬間に、一声惚れひとこぼしてしまいました。

どうやって再会したかの記憶は抜け落ちているけれど、彼と会うようになりました。

あとで思えば直前に手痛い失恋をしていたけれど、そのせいかはわからない。

彼と会うのはいつも同じ喫茶店で、向かいあっておしゃべりしていた。

彼は図書館員の聴講生、二つ年上、男三人兄弟のまん中。

話題は、文学（ヘリング先生は児童文学の授業）、女性の解放など。

お母様は看護師として働いていたそうで、

「僕は女の人も働くのはいいと思う」そんな話や、

素敵な声で、「君は本当に純粋な人だね」などと言ってくれるのです。

どのくらい素敵な声かというと、電話をとりついでくれた幼稚園に通ういとこが、お姉ちゃん、すごく素敵な声の人！と、ハートの目になってしまったくらいでした。

誕生日にあこがれのブランドの香水をくれたり、超ヘビースモーカーだったのに、「けっこう吸うんですね」と言ったら、次に会った時にはやめていたり、趣味の山登りには男性グループで行くというのも、男同士で気楽にと、男兄弟で育った彼らしい、女性への気づかいを感じる話でした。

あとで思えば電話をかけるのはいつも私から、彼の職場に。でも、いつも、電話を待っていた様子は誠実でした。

会っている時も八時頃までしかいらなかったけれど、必ず駅まで送ってくれました。

大学を卒業してからも彼と会っていました。

ある日、喫茶店ではなく川のほとりに行きました。

向かいあいではなく、横に並んで座りました。

私は彼へのおかえしに、紫のバラの花束を持っていました。

そして、彼は静かに告白したのです。

実は、籍を入れている、と。

子どもが出来たから籍を入れたが、その子どもはだめだった。

それ以来、彼女とはうまくいっていない、と。

そして、「今度一緒に港の見える丘公園へ行こう」と言いました。

私は、もう、二度と会ってはいけない、と決めました。

古風にきびしく教育されてきた私には、当然の決断でした。

いつものように送ってもらうこともせず、通りかかったタクシーに乗って、背もたれに精も根もつきはてたように身を沈めて帰ったのです。

女友達には、「籍を入れている」なんて、ずるい言い方だ、と言われました。

けれど、私には悲しくも美しい、一声惚れの思い出です。

実は、フィクションとして小説化したこともあります。

そして後日談、あの日私が持っていた花束、紫のバラの花言葉は、「ジェラシー」だそうです。

書き手〓いけまな

ファンタジーな気分

せつ

えっとね、ファンタジーな気分になるの！たとえばセックスしている時、セックスしていない時、いろいろな時に、知らず知らずのうちにファンタジーな世界に入り込むの！！それは自分が生きのびてゆくときの世界のひとつ！！

ファンタジー…嫉妬もそう言えるかもしれない。その世界に集中してるから物語世界、書いたり表現すると、落ち着いて現実に戻れる。ファンタジーはメルヘンともたとえられないの！！ファンタジーはとても幅広いの！！

ファンタジーはあいまいだけど、フワッとした世界。ワクワクしたりする。

書き手〓ともちゃん

美しいものが好き

さいつとー

淡谷のり子が美輪明宏に、演歌撲滅運動しましょって言ったっていうんだけどさ。^{*1}「北の宿から」の「着てももらえぬセーターを寒さこらえて編んでいます」とかさ、編むなって。演歌が嫌いなのはさ、泣いてすがって、あなたの色に染まりたいとか、惚れた惚れたよお前に惚れたとか、雨あめふれふれ私のいい人つれてこい、だとか。そんな歌詞ばっかだからやなのよ。

あれがいやなの。「恋愛するのが当たり前」っていう。最近知ったんだけど、ロマンチッククライデオロギーっていうんだって。恋愛して、結婚して、出産して、それが当たり前？　みたいな。現実にはそれは破たんしてるのにさー。うんざりなの。だから私、テレビ見ないですよ。

昨日も（ワークショップで）まいさんが、電車で隣のおじさんが読むスポーツ紙の見出しを見て、「そんなことあるわけないんだよ」って思った話してただけどさ、わかるのよー。「いやよいやよも好きのうち」とか「本心ではやられたがってる」とか？　「ここをこうすれば女が落ちる」とか！　「嘘」でも煽って買わせようってことなんだろうけどさ、「嘘も一〇〇回言えば本当になる」って言った政治家もいたけどさ、勘違いしちゃう男いるから。メディアとか、自分たちの嘘で自分たち自身が毒されてるっていうか。

美男美女が基本、好きなの。美しいものが好き。小学生の時、ひとりだけ、あの子の顔かわいいよなーって男の子がいたんだけど、やっぱりみんながかわいいと思うわけで。積極的な女の子におしまくられて、泣いちゃったりして、かわいい子でさー。あと、中学生のとき、吹奏楽部の一年上のホルンの男の先輩見て、あー、この顔好き!!　って思ったことがあって。その子が友だちと三人で写ってる修学旅行の写真が廊下の壁に貼ってあったとき、私、同級生についてきてもらって、その写真こっそり盗ってきちゃった。

やっぱりね、顔に表れる、性格が。だからその子、みんなから好かれてた。彼の顔を見ると私の顔がにっこりしちゃうって感じ。そういうものを人に与えられるオーラが出てるっていうか。

書き手〓たまちゃん

*1 戦後、日本のシャンソン界をリードした淡谷のり子（一九〇七年～一九九九年）は、同じくシャンソンを歌った美輪明宏（一九三五年～）を誘って、演歌は貧乏くさいから大嫌いだと公言していた。

*2 北の宿から…演歌歌手の都はるみ（一九四八年～）の楽曲。作詞阿久悠 作曲小林亜星。一九七五年二月一日に発売すると、一四〇万枚を超えるミリオンセラーとなり、翌年、「第18回日本レコード大賞」大賞を受賞。

おしゃれしたい！

おしゃれ

私、今、おしゃれしたいんです。十代の頃から、ず——と 服を選ぶ能力が、とくても低いんです……。高校二年生で、母が決める服ではなく、自分の服ぐらい自分で選べなくっちゃおかしいわ！ と思いはじめたあの日から、まー 本当に服選びは苦勞してきましたよ……。二十代の頃は、さんざん注意深く、時間をかけて、何度も試着をして、それなのに返品、また返品……。嫌な顔をする店員さんいますよねー、疲れましたー……。二十代の後半には、服の買い物が全くできなくなりました。叔母や知り合いの、着なくなった服をもらって、着てました。あの買い物のストレスに比べたら、多少ダサいくらいなんだ、タダなんだからしょうがない、と思っていました。小学生の頃から「恰好よく見られると周りから足を引っ張られる」という意識が根深く植えつけられていて、ダサい恰好だと、にらまれないし、目立たないし、異性からも放っておかれてあー 氣楽と思っていました。あの頃の写真を見ると、まー、若い娘なのにひどい恰好して、本当にかわいそうだった、勿体なかったと、中年になった今 생각합니다。三十代の半ば過ぎから、また、ちょこちょこ買い物チャレンジ再開しました。イトーヨーカドーでジーンズを何本も買って、セーターも何枚も失敗して……。二十代の頃よりは減ったけど、相変わらず返品します、たま——に。今、中年。そのあと老年。今の私を楽しみたいです。おしゃ

れしたい！ 素敵な恰好したい！ というわけで、お買い物を手伝ってくれる人、常時、絶賛、大募集中です。あ、予算は少額なんですけど……。

どうしてワークショップに参加したのか、 タイムリーと思って

まなみ

うーんと、えーと、私去年の十一月に仕事をやめまして。で、やめたタイミングでひとり旅に行っ
たんですね。南の方はあんまり行ったことがなくて、九州の方、鹿児島の特カラ列島、カタカナでト
カラって書くんですけど。その「こだから島」、小さい宝って書いて小宝島っていうんですけど、そ
こに一週間……一週間弱くらい泊まって、なんにもない、民宿しかない島なんですけど、一周二kmく
らい、歩いて三〇分でぐるっと回れるくらいの小さな島で、島民も五〇人くらい。

その泊まった民宿のおかみさん、とその隣の家におかみさんのお兄さんがいて、おかみさんはお
かみさんのお母さんと暮らしてて、おかみさんも六〇くらい、お兄さんは七〇とか、お母さんは九〇
とかで、家族ぐるみでお世話になって。おかみさんには車に乗せてもらって海とか連れてってもらっ
たり。お兄さんは肉牛を育てていて、黒毛和牛。その手伝いをさせてもらったりしていたんですけど。
帰る時、島から本土にわたって、鹿児島市内を観光しようと思って、そしたらお兄さんが案内し
てくれるって言って、市内までついてきてくれて、鹿児島のおいしいとか、ラーメン屋とかいろ
いろ連れてってもらって。

で、私、市内で一泊してから東京に帰る予定だったんで、色々案内してもらって歩いてたら、お兄
さんが無理やり腕を組んできて、こーやって。あ、これと思って、私は「離してください」って言って。
そしたら離してくれたんですけど、お兄さんがなんか「普通こーやって歩くんだけどな」って言って。
で、まあ、それからはまあなんとなくなっただんですけど、ホテルに帰ってきて、ひとりになって、な
んというか、罪悪感というか、気持ち悪いって気持ちと、一緒にズーンってなって。

ホイホイついていった私が悪いのはわかるし、でもすごく親切にしてくれたし、それを裏切ったと
いうか。でもおじさんも悪いというか、私が女だったから悪いのかなあって。私がもし男だったら、きつ
とあんなに親切にしてくれなかったと思うし。でもなんかねー。二〇代すぎて、成人として女とし
て自覚していきやいけないんだっていうのはわかってるけど。

でも純粹に人の気持ちを信じたっていう気持ちがあって、同じ人間じゃん！ って。
女としていきやいけないのが、義務みたいなものであるのかな――

で、羽田に帰ってきて、もともと現実逃避するために رفتったんですけど、ホッとして。「ここで生ま
れたんだな」って思って、ホッしました。

こういうの、女が悪いっていう人もいるし、成人してるし、そのくらいのことはわかっていないとっ
て思うけど、そこまでいろいろ考えるのはめんどくさい。ひとり旅だから自己責任だっていうのわ
かってるけど、これはホント、ここだけでしか言ってなくて、家族には言ってません。ひとりで旅な
んて行かしてくれなくなっちゃうから。ここだけの話。

書き手〃なお

あんな、奇麗な色。

みほ

ひとつ思い出したことが……。

二二才の春、身ひとつで上京したのね。身よりもなく、本当に着の身着のままって感じで。家とボーイフレンドには「一年だけの社会勉強」って許可をもらって。

それで、フリーターみたいな感じでアルバイトしてたの。そこで一緒に雑誌つくる仕事をして、親しくなった人がいたの。

同い年の編集者なんだけどね。普通に、別に、お付き合いしてるとかじゃなくて、でも、とても仲良くはしてたのね。

その彼がある日さ、夕方だったわね。たぶん、仕事終わったあとだったのかな。

ふっと、伊豆に旅行に行こうっていうの。「下田に行こうって」。

特別、どうという感じでもなくよ。ただ、ふっと。

それで、レンタカー借りて、その日のうちに下田についたのね。真夜中過ぎ、ぐらいたったのかな。二月だったわね。でも、とっても温かい日だった。

下田の海岸沿いを適当に飛ばして行って、地元の人が駐車場に使うてそうな、ちょっとした場所のはじっこに、車を止めたの。

あつ、止まった、つて。でね、車の中で寝るモードになったわけよ。今晚は、ここで寝るんだなって、違和感もなく、思った。

車を止めて、彼が、カセットテープをデッキに入れて、スイッチ押したらさ。知ってる？ 忌野清志郎の『スローバラード』*₁。「車の中で寝た」って歌。「君の寝言を聞いたんだ」ってのが流れたわけ。いや、狙ったのか、狙ってないのか？ 分かんないわね。彼、清志郎が大好きだったからさ。

それで、眠ったわけですよ。

眠った。そして、ふっと目が覚めた。四時ごろかな？ 微かに、空の色が明るくなったから起きたんでしょね。

それで、ふっと見たら、車が止まってるのが、海のぎりぎりななの。その海が奇麗な薄紫色でね。海しか見えない。あんな、奇麗な色。ただの一度も、見たことないような。

二人とも、しばらく、何も言えなかった。じーと。だまって、海を見ていた。

それからわりにすぐ、ふっと、「家に来る？」って聞いてくれて。彼には彼女も居ただけだね。

「え？ 転がり込んでいいの？」って、なって、本当に犬が拾われるみたいに、居させてもらうことになった。

普通に、そこに、帰って寝るけど、セックスみたいなことは、しなかった。少なくとも、それが目当ての人じゃないなって分かって。私も、それを、まだ、望んでいなかったので、まあ、そのことも伝わってたんでしょね。

彼のことは、そこも、いいなって思ってたわね……。

上京してちょうど一年後、五月の連休に、福岡の実家に帰って、もう、東京でやっていくから、福岡には帰らないって伝えたのね。それまで付き合っていたボーイフレンドにも、一度会って、はつきりお別れした。

それからかなー、ちよつとずつ関係が変化したのは。

書き手〓たまちゃん

*1 忌野清志郎（一九五一〜二〇〇九年）をリーダーとするロックバンド、RCサクセションが一九七六年にリリースした楽曲。

自分のことは置き去りにしたまま

みほ

高校二年からつきあった同級生。先生とタメ口で交渉事とかできる人で、すごい！ って思ってた。両方の親にも紹介して、交際を認めてもらった。毎週デートして、一年くらいたつと、なんとなくそういう流れになるでしょ？ その頃には、この人と結婚するんだと決めてたから。彼、いろいろ探したみたい……出来る場所を。でも、セックスって、そんなに簡単なことじゃないよね。最初、入らなくて、失敗のくりかえし。何がおきてるのか、快感とか、全然わかんない。「彼を満足させられてるのかな……？」なんて、ずーっと不安なわけ。当の彼氏にも聞けないし、女友達にも話せない。きつものすごく個人差があること。したいかしたくないか、自分のことは置き去りにしたまま、好きな人が望んでるならこれでいいんだ、って人も多んじゃないかな。

見え方は刻々変わる

みほ

その時々、愚痴を聞いてもらうレベルだったら、いくらでもでけると思うの。

旦那にこうしてほしいなっところとか？ いっぱいある。

でも、その旦那を選んでる、私は何？ って思っちゃう。

旦那の悪口だけ言って気持ちよくなってる奥さんとか、絶対、違うと思う。

ある程度、自分と旦那を公平に見て、相対化しているつもりなのよ。

でも、あとで「あ、私の見方、間違っていた！」って思うこと、いっぱいあるのよ。

毎日、一緒に過ごしてるわけだけど、その日によって、見え方が刻々変わる。

結局、自分の考え方の癖ってあるでしょ？ 私、間違った深読みをしてしまう癖があつて、

「相手がこういうこと言うのは、こういう理由があつて、こういうことなんだ」って、私という枠に当てはめて見てしまう。夫は違う人なのに、いつまでたっても独り相撲しちゃうわけ。

あとで「あ、違った！ ゴメンナサイ!!」って思ったのに、また、同じこと繰り返してる……。って。

そこまで気がつくようになっただけマシかな？ 昔は、ひどかったわね。勝手に思い込んで何年も

根に持っていたり。

ちよつとずつは自覚できるようになったものの。一九年よ！ もう、なにやってんだか。

まあそういう自分との戦いというか。きつと、これで終わったっていうふうには、ならないんだろ
うな……。とようやく思えてきた。

書き手Ⅱたまちゃん

私にとっての呪（しゅ）

しゅ

女どうしも、男女も、親子も、他の人のことをいったん受けとめて共感できたらいいと思ってます。言葉は「呪（しゅ）」だから、使い方ひとつで正しく伝わらなかったり、誤解が生まれたり、難しいけれども……。

昔、上の娘のために買ってあげたサキソフォン（サクソ）があって、下の小学生の息子がやってみたいと言った時、「どうせ安物でしょ」と母が言った。その言葉に、「どうして？ なぜそういうことを言うの？」と反論したの。悪気があったわけじゃないだろうけど、母は昔からしばしば他人にそういうことを言う。それを私は小さい頃からいやだと思ってた。

私の母はお店をやりながら三人の子どもを育て、まじめで世間的にはすごくいいお母さんで。規則とか決まりにも厳しくて、小学校の時、前髪をピンで留めるという決まりがあったんだけど、守ってない私のことを兄が母に言いつけて、学校から帰ってきた私の前髪に母が無理やりピンをさして、おでこがピンでさけて血がにじんだことがあった。

痛くて、すごくいやだった。それ以上に母の怒りが込められていたその行為が忘れられない。

母は世間的にはいいお母さん。でも、私にとっては、くそまじめで、ユーモアや笑いが無い。

母の言う通り、望んでいる通りにすることは、自分が自分でない感じがしてしまふ。

物心ついた時から、母は「娘は口答えして、私のことをイジめる」「育てづらい」「感受性が強すぎる」

「気性が激しい」と言う。

ただ歌や踊りが好きで、リズムに乗って体を揺らしていても、「落ち着きがない」と言って叱る。

私は小さい頃から人との関係を築くのが苦手だった。でも最近PTA活動を通して、自分を信じて、まわりを信じて、きつとわかってもらえるだろうと、丸ごと信じてぶつかってみたら、すごくわかってもらえる体験をした。

今までは、異なる意見とぶつかると、パニックってたけれど、いろんな違いを、まずは受けとめてみる、自分を信じてまずは動いてみたら、気持ち楽になった。

この成功体験を、自分と、母の関係にも活かせたらいいなあと思う。

でも自分には、まだ母のことを信じられない気持ちがあるから、それも難しいと思っている。

五歳のころ、親戚で旅館に泊まった時、私と叔母（母の妹）の間で小さいさかいがあったのだけれど、その時に、母がボロボロ泣きながら悲しんで、私を裏山の崖に連れて行き、「この崖から飛び降りて一緒に死のう」と言った。その時のことが私にとっての呪（しゅ）、呪いになっていて、今でも私は取りつかれていると感じている。

書き手Ⅱナオコ

自分の気持ちはないのかって

かよこ

私、今年三五になるんですけど、三〇なる前に群馬から東京のほうに出てきて。

「自分を生きるために結婚しませんでしたらめてください」ってこっちに来ました。

でもなにかあるたびに、「いい人いないの？」って、めんどくさいなって。

でも私は仕送りもしてるし、一人前だと思ってる。

結婚してないと人として半人前って言いは、なんていうか、ざっくりワクに入ってないと、基本に入ってないと、一人前じゃないの？ って。

結婚したいと思える人が現れたらそれはそれでいいなって思うけど。私はその必然性を感じないし、両親の関係性を見ている疑問に思うから。

親はもう、まあいいやってなってるけど、まわりの人が「かわいそうな人ね」って、そういう前提で話を進めてくるからめんどくさいって。

子どもの頃から思ってた。うちの両親が、夫婦っていうか一緒に暮らしてるなら話し合ってた。っていうかパートナーなんだからって。父は母のせい、母は隠れて。一緒にいる意味あるのかなって。離婚すればいいのって言ったこともあるけど、「お前たちのため」とか「世間体が」って言うからめんどく

さいなって。それなら一緒にいていいのに。自分の気持ちはないのかって。親戚もそんな感じだし。血はつながっているから、というだけでは家族って言えない。血がつながってるから仲いい、じゃなくて、つながってなくてもいいんじゃないかって。両親は好きだけど、根本的に合わない。

三つ上にお姉ちゃんがいるんだけど、話すけど、人として違いすぎて。

双子の姉のヒサコも結婚いいやって。姉は式はあげてないけど、三人子どもがいて。じゃあもういいよね。役目は果たした。お姉ちゃんありがとって。

親は結婚しろって最近はどう言ってる。もうあきらめたのかな。もういいやって。一緒に暮らすと共存みたいになっちゃう。子は子でってならない。距離は死守する。

書き手Ⅱめぐちゃん&いまむー

負のスパイラルを断ち切る

チャコ

母親の話をしようと思ってる。

もう記憶にある小学校入学くらいの頃から、ともかく訳もなく意地悪で不可解だった。で、ずーっと五〇年間、いやな人だと思ってた。今回あらたにわかったこと。精神科のカウンセリングの診察結果、母は人格障害だと、妄想型人格障害だと言われました。先天的なアスペルガーと違って、この手の人格障害は後天的だそうです。だから娘時代からか、母になつてからなのか、おじいちゃんもおばあちゃんも死にたえたから、もう誰にもわからない。だから実家か、嫁いだ先の軋轢か、母の人格に障害をもたらした。一番守るべき子どもにまで害をなす不可解な行動にまでなっただのは、非常に残念だし、あの世代の生まれの女性は、自分をねじ曲げなければいけなかったのかと。

今自分がやるべきことは、ねじ曲がった親に育てられた子が負のスパイラルを続けないように。自分では人でなしって言われてもなんでもない。娘を育ててきて、スパイラルをたち切ろうとしたし、してきたつもり。正直なところ、意地悪な母にいつか目にも見せてやるって思ってたけど、病氣とわかってそれもかなわなくなつて残念。

病院ではあんまり前向きじゃない話だった。私が知ってる限り五〇年以上にもわたる病歴の人はい

まさら変えられないし、構築してきた人間関係は変えられない。いまさら「母は病氣なんです」って言つてもね。「またあの人でなしの娘が母親を悪く言ってるよ」ってなっちゃうからね。

書きの手＝いまむー

自分の人生は自分でやっていこう

ニケ

八つ上のだんなさん、ふたりで商売をしている。今は糖尿病で透析を受けている。頑固な人で、ずぼらで怖がり（ほんと頼りたいのにそう言えなくて遠慮している）。そんな性格だから病院に行くのも遅くなった。

先生からは「奥さん、今までなにしてたの!？」と怒られたけど、なんで私のせい？ 酒もタバコもテキトーな生活してきて。私はこの人の召使いでもないし。ひとりでできないなら助けを求めればいいのにそれもできない。「どっちかにしてくれよ!」……悪い人ではないんだけどね。

だいじなのは気持ちを伝えてほしいってこと。潜在的に、男だから女だからっていうのがお互いにあったんだと思う。男なのに決められないのかっていうんじゃない、「そうだね、あなた決断力ないから私が決めました」って。ニュートラルにやっていけばいいんだよね。

世の中の奥さん、女の人の価値はだんなさんによって位置づけられているところがあるよね。「あのだんなさんの奥さんね」っていうのが納得いかない。私もかわいくなってふるまいをしていい人と結婚していればなって思ったりするよ。でもそれっていけないと思うのよ。

あ、こういうことがあったんよ。男が一〇人、私と、もうひとり四〇くらいの女の人での会があっ

て。その女の人が目上の人のお弁当をさっと下げに行ったんよ。会議に招かれた側で、その主催者もその場にいるのになんであんなに。帰りも雨が降ってて、ひとりひとりのカサをハイハイって渡していくの。四〇くらいの男の人が「みんな自分のカサ持つてるんだからやる必要ないよ」って言ったんだ。女子だからってそういうのやるのは若い人に悪影響を残すと思う。いつまでも男の下に女がいるような雰囲気を変えていかんと、これからは。ふざけてるであれ。飲み会割り勘なのに、なんであんなのビールつがないといけないんだ。ぶんぶんはしているけれど。自分の人生は自分でやっていこう。

書き手Ⅱ なかちゃん

なんで「ここだけの話」って言うのか

まろこ

「ここだけの話」って、ここだけじゃないことが多い。なんで言うんだろうって思う。本当に秘密のことじゃないのに。「本当にここだけ?」、自分もどこかで言われてるんじゃないかなって思う。女子同士で話した時とか。「本当かよ」って思った。「ここだけの話」で出てくるのは、自分以外の噂話。よい内容なら話してもいいけど、あんまり使いたくない。悪口を言うのはしんどい。でもやめて、とは言えない。友達との関係がギクシャクしちゃうかもしれないから。嫌われたくないから。

五歳の時、「ここだけの話」で始まる悪口をふたりきりの時に言われて、なんて言っているのかわからなかった。

「ここだけの話」って言って、仲がよいと思いたい。そういうふうにして言ってるんだと思う。自分にはあまり言いたくないけど、相手のことを信じているから言う。それを考えると嫌じゃない。そういう問いもあっていいのかなって思う。「ここだけの話」は、秘密ってことだと思う。

なんで「ここだけの話」って言うのか。言いたくなるのが不思議だなと思うとともに、疑問に思う。

書き手〓くりちゃん

備えて、備えて、旅に出る。

ゆきこ

ずーと押しとどめていたわけ。言葉に出すということを……。

舞台の上で、自分の物語をしゃべりたかった。誰に向かって伝えたかったんだろう？ 私としては、空に向かって、なにか大きなことをしているような気持ちでいたわね。舞台で言えて、気が済んだ。満足した。

（性虐待の周辺の話は）それまでも、いろんな場面でしゃべってはいるわけよ。カウンセリングなんかでもしゃべってたわけだし。グループワークとか、その日集まった知らない人と一〇人とかのグループで、「わーっ！」って、感情がだだ漏れな感じでしゃべったことは何度もある。なぜなんだろう？ その時はさっぱりするけど、全く満足いかなかった。

舞台の上にいると、すっごく楽しいわけ。なんか自分が「普通」になる感じ。「普段の自分を取り巻く環境は自分を『普通』にさせてくれない」っていうのはそうかもね。

舞台が、みんなで作る作業をしてきた場だっていうのは、大きいんじゃないかな？

自分がいる場所が安全だと感じられるかどうかってことは、本当に大事なことなんだと思うわね。

叔父から性虐待を受けたのは四年生の時、その時のこと、場面みたいなものは覚えているんだけど、それが性虐待だとわかるのは、もっともつとあとのこと。

しかも、そのあとの記憶がぼっかりないの。

五年生とか六年生とかの学校のことや、友達とのこと。その辺のことをあんまり覚えていない。

わたしは、言葉が、なんか、うまくいかないって思い込んでいたとか、うまく気持ちと繋がらない感覚があるんだけど、今思うと、その時のショック以降の時期、ちょっと、言葉というものを喪失しちゃったところあるのかもね。自分を閉じたというか。

性虐待の話って、まるでおとぎ話か、昔話を自分自身に語るみたいにしていたかもしれない。そうやって自分の物語を抱えてきたと思うんだよね。誰かに物語を聴いてもらう必要があると思ったのは、肥大した物語を手放したくなったからかもしれない。これは生きにくいから。

二五〜二六歳くらいかな？ フェミニストカウンセリングに興味を持って、自分もカウンセリングを受けはじめた。「母親に話してみよう」って思って、初めて、あったことを話した。そうしたら「わたくしもよ」って。ひとこと。自分も性虐待を受けたことがあるのだと話しはじめた。びっくりしているうちに、私の話はどこかいつちゃった。

言ってみて、駄目だったなと。って、それで撤退。拒絶された。母は逃げた。ずっとそう思ってきた

たけどね。未だにそこは許せないって思うわね。それでも、私の中ではもつと母に対する思いは複雑だった。母も傷ついた少女だったから。

その時は、ただショックで怒っていないの。自分が、とんでもなく怒っていることに気がつくのに、それから何十年もかかっている。もちろん、母にだけ怒ってるわけじゃないから複雑なんだけど。気がついたのは、たぶん四〇過ぎ、母がばけてからだと思う。

安心して自分の怒りに触れることができたのは。

なんだかんだ母親を許す方向に持っていこうとしていたわけ。母も辛かったんだと。色々と許すための理由を見つける。

我が家には問題が山積みだったしね。母も苦勞した女性だから。

それがさ、私自身の辛さとか、感情とか、覆い隠すことに働いちゃうわけ。なんなのかな？ その方が少し楽っていうのもあるのかな？ ただ、怖かったのかもね。

私の友達は、自分を大事にしてって言ってたわね。そうだねとにやにや笑いながら、ふざけんなよって内心怒っていた。最近、同じことをずっと言い続けてくれた友達には感謝しかないですが。

自分の「気持ち」の上にきちんと座っていられない、危うい感覚ってまだ私の中にあります。

母にとっては、私は「長女」なんだけれど、母とは横並び。アシスト役。私は精神障がいを患う兄

をケアするチーム（家族）の一員なの。家族全員で兄を見守るみたいになっちゃうところがあるわけです。実際は、家族でもがいていただけかもしれないなあ。

母は父との生活をすごく大事にした。必死だったというか。子どもがいることは、その父との関係にとっては、損失だって、彼女はどっかで思ってたよね。父の愛を独り占めしたかったのかも。

例えばさ、昔っから、私が父と二人で楽しそうになんか話していると、「ねえ、ねえ、これってさ〜。」ってまったく違う話題を振ってくる。子どもばいっていうか、子どもの私に嫉妬するっていうか。入ってくるわけよ。父娘の間に。そのことは気がついていたけど、言葉にできたのはずっと大人になってからなんだけどね。

今は、父の面倒見ながら一緒に生活していて、年取ってどんどん率直に自分を語る父と居ると「あゝ、なるほど母は、この父のことが好きだったんだな」って感じがあって……。〈母の愛情〉ちゃんと父に伝わっているのがよくわかるの。父はうんと愛されたんだなって。

なんやかんや言っても、母が父を全力で愛してたことが、私にとっての生きる力になってるところがあつて。

私ね、あの人好きだと思うと、その人に向かって走るって感じ。もう犬みたいよ、そうになったら。あれは三八歳ぐらいかな？ 知的障がいの人達のグループホームに勤めてた時だから。夜勤があけるのが、朝一一時、それから家に帰ってすでに認知症の初期症状が出はじめた母に変わってご飯つくって家事やったりしながら、夜七時とか八時の彼氏との待ち合わせにワクワクしながら支度して……。寝てないわよ。それで逢うでしょ。簡単に食べて、ホテル行って、やることやって、一一時にバイバイって電車に乗って、家、帰って。もう、吐きそうに眠かったわね、電車の中で。タフだったわね。まあその辺の血は、母から来てるのかな？ なるほどなって思うことがあるわけで。

父が亡くなるまでは、家族の役割を担っている自分でいると決めた。今は、父と一緒に生きてる。で、父が死んだら、家族の物語はおしまい。兄と弟とも話して、それぞれの生き方でいこうって決めたの。あと、何年かな……。勿論六〇過ぎてても私は行きますよ。もうその時に向かって、備えて、備えて。私ね、「自分は出逢う」って感じがするの。泣けるくらい大事な人に。恋愛かどうかは限らないけど、いつもそこに居るって人にね。私と一緒に生きる人。そのために、旅にでるわよ。

書き手Ⅱたまちゃん

ママ友の中におっさんが一人で入っていく感じ

ナオコ

私は三九歳でデキ婚だったの。

親に内緒の交際で結婚はしないつもりだったけど

想定外の妊娠で、六ヶ月までは誰にも言わずに働いた。

一九八六年の雇用機会均等法の二年後の八八年に熾烈な就活もして、

希望に燃えて新卒で受かった広告代理店に二〇年、正社員として働いていたの。

結婚・出産・職場復帰で私のキャリアはすごく変わった。

結婚してなかったけど六ヶ月で「実は」って職場に打ち明けたときは

「えーっ」てなったけど、一応おめでたいこととして受け止めてもらえた。

七月末、妊娠がわかって

二ヶ月後の九月に親に話して

そのまた二ヶ月後の十一月に入籍して

年が明けて三月に息子が生まれた。

二月まで働いて、産休六週、育休一年のあと、元の現場に戻れた。

今までの私のキャリアで元の職場に戻れたんだと思う。

でも、戻ってからしんどかった。

夕方六時の保育園のお迎えまでに何とかするために早出もした。

パートナーの協力はまあまあだったけど、ファイティ・ファイティってわけにはいかない。

子どもは小さければ小さいほど、母親でなきゃの部分が多くなるでしょ。

正社員だったけど復帰して、子供が四歳の時に辞めた。

競争社会の中で、毎日追い詰められてた。

思い出すのは、母乳をやりながら、実は頭の中は仕事のことをグルグルしていたこと。

自転車操業で、皿回ししながら両手両足に乗せた皿を一枚も割らないように！

性格もあるけど、仕事も育児もきちんとやっちゃう。

長時間労働をよしとする風潮のなか、時間的には圧倒的に少なくなっているけれど
質を上げようとすることにチャレンジしてきたつもり。

出産前は、何とかこの会社で認められようとしてやってきた。だんだん認められるようになって、女性初のポジションも経験した。クライアントからの評価も変わらなかった。でも私が担当になると、会社は「女性ですがいいですか」みたいなお伺いを立てるのよね。それでも社内の女性パイオニア的な自負心から私が失敗するわけにはいかないっていうプレッシャーがあった。男の中にいるほうがいつしか楽になってきたの。

でも子供が生まれてみたら、思った以上に子供を持ったことで余裕がなかった。どんどんエネルギーが出て行って充電する前に放出して、出ていくエネルギーが尽きちゃった。そばにいるダンナが「ちょっと、やばいな」と思ったらしい。仕事辞めろとは言わなかったけれど「仕事、辞めることを考えてもいいんじゃない」って言うてくれた。正直休みたいっていう、ギリギリのところまできていた。

復帰当時は以前からよく知っている男性上司だったけれどそのあと、転職してきた独身の女性上司が来てその時、二〇年働いていて、今までもらったことのない最低ランクの人事評価をうけたの！S / A / B / C / D の「D」。

今まではSかAしかもらってなかった。もう、この会社で自分のビジョンを持てなくなったの。もう、エネルギーがなかった。休みたい気持ちが先に立って誰にも相談せず、辞めちゃった。

子供は保育園に半分育ててもらったようなもの。ちゃんと子供に向き合えてなかった。小二から不登校になり、自分を責めた。保育園にも行きたがらなくて、はだしのまま逃走しているのを私、追っかけてたり。

ぎんぎん泣いてる子供に、通りすがりの年配の女性が声をかけてくれたことがあった。涙が出た。通りすがりの人に助けられるなんて。

産まなきゃよかったとは思わなかったけれど
妊娠したことに自分が不用意だと思った。

疲れ果てて仕事を辞めたけれど

仕事を辞めてからの一年がめっちゃしんどかった。

それこそ若いころは、一番なりたくなかった「専業主婦」になっちゃったわけですよ。
敗北感・挫折感が、ドーンと出てきた。

ホッとしたくて仕事を辞めたのに、
家にいても全然ホッとできなかった。

子供も保育園から幼稚園に変わって

引越してもして、環境はガラーッと変わったの

ママ友の中におっさんが一人で入っていく感じ？

ママたち・女子供の中に息をつめて飛び込んだ。

もう会社員にはなりたくない。

子供は小五、まだ学校へ行けてない。

中学もあるし、一年、これから考えなきゃいけない。

今はまだ模索中なんだけど

男社会の会社じゃなくて

違いかたちで社会にかかわっていけないかを見つけていきたいわ。

書き手||チャコ

心は自由に

ナオコ

女であるがゆえ、妻・親であることで、〇〇したほうがいい、やめたほうがいいという事を世の中からおしつけられる。でも、どうすべきかのほうではなく、自分が本来何をしたいかのほうが大事。若い頃は社会の価値観にふりまわされてる。私は仕事をしていて、子供の誕生から結婚をして、そのあとまた仕事に復帰した。三九歳で結婚することに周りじゅう驚き。仕事に復帰してからは、仕事や子育てに追われる日々で大変だった。頑張ったけど、そのあと自分のキャリアを積んでいくという目標を見失い、二〇年のキャリアに幕を閉じた。本当にそれでよかったのか。そのあと、専業主婦の生活になじめなかった。ママ友との会話になじめず、幼稚園のPTA会長というとりまとめ役となり、とりこまれていく感じがして、ドラマのような、挨拶を無視されるというPTAのお母さんたちの中で人間関係に悩んで夢に出てくることも。

子供が、そのうち小学校に入學して、小二〜小五の間、不登校になって、いじめなどではないと思うし、理由は定かではないけど。不安が重なったのか……。自分はどうしていいかわからず動揺し、母親としての挫折感があり、じたばたした。夫の協力は得られたかというと、母親と父親の役割は違うみたいで、夫は仕事に逃げていると思う。聞いてくれているようで聞いていない様子ってわかるよ

ね。人生初めて、このような事に直面した。

このワークショップで、解決したいという事はない。でも、子供と過ごす毎日を大切にしたいし、生きていく事の大切さを伝えたい。親も友人も大切にしたい。何年か子供につきっきりだったのが、子供のために、自分が楽しいんだと生きていること（好きなものを食べ、旅行をするなど）。子供は、ママがやりたい事、やる事を応援してくれる。苦しい時も、自分に閉じこまらないで、自分も人に助けてもらい、助けてくれた人を自分も助けたと思うっている。これからも悩んだり、もがいたりは続くと思うけど、しなければならぬことにとらわれず、自分に素直に心のままに。心は自由に。

書く手＝とき

自分の生きかたを選べる社会になるように

なかちゃん

私は今、五二歳。若い時、ひとり暮らしをしたって言ったら、猛反対された。障害がある女性だから。ボランティアさんにこれからはお金を払って契約しますと言ったら、考え方が違うと離れていった。子宮筋腫ができた時、「私は子ども産みたい」と先生に言ったら「エッ」で。その反応にとっても落ち込んだ。私は女性として生きていきなかった。結婚して子どもを産んでおしゃれもして。まわりの女の人を見て、私は女性っぽいかなって気になったりもした。でも、女性としてかなわなかったことも多い。これからは障害をもつ女性も 自分の生きかたを選べるような社会になるように 私はアピールしていききたい！

私の中の小さな私

なかちゃん

結婚してからずっと、私は赤ちゃんを産みたいと悩んでいた。できる限りの努力をしたいと、夫に頼み込んで、人工授精をした。妊娠はできなかった。でも、やれるだけのことはやったので、悔いはない。

私は二、三歳の頃、小児病院へ入院していて、両親と離れて暮らしていた。退院して家へ戻ると、弟が生まれていた。

私はお姉ちゃんだから、「さびしい」とか「甘えたい」と言ったらいけないと思っていた。

赤ちゃんがほしかった理由の一つは、小さな子どもはどんなふうに、両親に甘えるのか知リたかったから。

今も、私の中の「内なる子ども」が、足をバタつかせている。いつか、私の中の小さな私を、やさしく抱きしめたい。

はじめてのブラジャー

かよこ

九四年。はじめてブラジャーをつけた。レーシーで、ファンシーな、キャラクターもののブラジャーだった。すごい着せられてる感まんさいで、恥ずかしかった。私より明らかに胸の大きい子が、「あー、かよちゃん、ブラジャーつけてる、おとなー」って言ってきた。すごい嫌だった。自分が今まで女性の身体を見る側だったのに、それがブラジャーをつける事で、今度は逆の立場になるのになって不安があった。

はじめてのブラジャー

めぐちゃん

一九九八年。親にブラジャーをつけられた。されるがままで、なにがなんだか分からなかった。前ホックのブラが出たとき、親が「これなら介助しやすいんじゃない？」と買ってきた。介助のやりやすさで下着を選ばなくちゃいけないの？ 前ホックのブラはシンプルな柄のないやつが多く、嫌だった。

とおちゃんかあちゃんを、強く想って

よっしー

今まで、信じて歩んできた私の人生。

私は、

少しすれ違うこともあった夫のことも

息子たちのことも

好きになった彼のこと

友達のこと

仕事のこと

みんな、好き。

息子が事故で一時、意識不明になったことがあった。

そして、意識が戻ったとき「とおちゃんかあちゃん」と言ってくれた。親子にしかわからない深い絆がある。

息子には幸せになってもらいたい。

五〇代のころ、胸がドキドキするような恋をした。素敵な思い出がたくさんある。

でも、自分の病氣のことで彼には心配かけたくないから、彼とは会わないことに決めている。

「もっと頼ってもいいよ」とみんなは言ってくれる。

人を信頼するってどういうことなんだろう？ということに迷い考えながらも

私は私の思う人生を、さいごまで歩いていきたい。

書き手||まろこ

置き去りにしてきたものがあつたのかな

よっしー

別居中の夫がくも膜下出血で亡くなった時、夫は三八歳、私は四〇歳。恋をして結ばれた結婚、でも、結婚して夫は変わってしまった。

長男を身ごもった時、夫は自分が父親を早くに亡くしたためでもあつたか、父親にはなれない、産んでくれるな、と。次男を身ごもったときも、やはり産んでくれるな、と。暴力もあつたけれど、私が頑張ればこの関係は修復できると信じて、必死に仕事と子育てをしてきた。まだ子供だった息子たちには、話さないことがあつた。

三人一丸のつもり、でも、今思えば、夫の不在、夫から愛され大事にされた実感がなく、それぞれ心にぽっかりと穴があいていたかな。

何度もしている、トウチャンかあちゃんの話。

長男は、高校を中退して、些細な言い争いをして一九歳で家を出ていった。私が出ていきなさいと言った。

ある日、友達のお母さんから、「Tくんが〇〇病院に入院してるよ！すぐ行つてあげて！」と。

長男は、自分の好きな道を歩きはじめた矢先、アルバイト先の女の子の失恋話をきいてあげながら、大五郎を飲んで酔っぱらって、噴水に入って、低体温症、救急搬送された。

病院に着いて、色々な管につながれた息子を見て・・・父ちゃんと同じ格好して死ぬの？・・・

半日経って、意識が戻った時、看護婦さんが私を指して「この人は誰？」と。

長男の発した言葉。「トウチャンかあちゃん」

何をふざけているんですか?! という看護婦さんのそばで、私は満足。納得。

次男は、指しゃぶりが止まったと思ったら、抜髪や爪噛みぐせ、心の傷を抱えていたんだね・・・

次男は自転車で交通事故も、何度も。迷惑をかけた人に会いに行くことになって、長男に「一緒に謝りにいって」と頼んだら、「一番いい服着ていこうぜ!」、着ていった!

病院や警察署で、長男と次男は兄弟に見られなかった。長男と私は親子に見られなかった。

長男が二八歳で結婚した時に、別居のいきさつやつくろつてた嘘を話した。泣きながら、全部がうなづいた、話してくれてありがとうって。

次男にはまだ話さなかった。ピースボートの旅で仲良くなったふうちゃんに、苦しんでいるのになぜ話してあげないの? 子育て間違つてたよ、と言われて、船の中で泣いた泣いた。

でもまだ話さない。

次男が離れた地へ就職のために旅立つ日は、私の定年退職の最後のお勤めの日、自分のことではないっぽい！

お正月に帰省して、ゆっくり話す時間があった。でもまだ話さない。休みが明ける、また送り出した日は、どうしたらいいかわからないよ、寂しくてたまらなかった。

エキストラのお仕事で、青汁の広告の体験者に採用された。他にも、脚本の勉強、課題エッセイ、朗読、それから写真プリントクラブ。

今は連絡してないけれど、写真にまなざしが現れている、好きな人が、いた。私から映画を観に行こうって誘ったり、食事に行ったり、一四歳も若い彼にやさしくしてもらって、ああ、父ちゃんと死別した年頃の男性だから好きなのかな、私の心にも穴があいていたんだな。

そして二〇一五年一月、このワークショップに申し込んだ！ ピースボートのふうちゃんがみつめて教えてくれた。

一月に始まったワークショップ、演劇だから発声練習なんかをやるのかと思っていたら、ぜんぜん違った。一回お休みして次に行ったら、目が点。自分の女性の部分には触れないで生きてきた私が、「生と性をめぐるささやかな冒険」。

もう行くのやめようかな、という時、話を聞いてくれた。なかなか振り付けを覚えられなかったら、くりちゃんが紙にかいて渡してくれた。

五月に私が入院した時、とうとう次男に父ちゃんの話をした。長男とは全然違って、泣くどころか、「お互いに原因があったんだね」。がんばったねと言ってくれと思っていたのに。

私の持論、子育てがうまくいったかどうかは孫を見てわかる。

長男は子供を持つて、よくやっている。

次男も自分の家庭を築きたいよ、と言った。

今は一日一日がとても大事な時間。

むかしはこわかった檣山節考、息子の気持ちはわからないが、喜んで積極的にしよわれて行く、今は納得、すごくわかる。

甘えたり、頼ったりするのは苦手かな。

書き手＝いけまな

私となりにいる人は

よっしー

このワークショップの参加者募集があったのが（二〇一五年の）一二月か一月頃で、その頃は病気のことは分かっていたなくて、うまくいけば八〇歳くらいまで、あと二〇年くらい生きるんじゃないかって思ってたんですね。それで、今まで置き去りにしてきたものがあるんじゃないか、それを取り戻せる二〇年だといったと思っていました。

でも、途中で八〇歳まで生きられないんだってわかって、一日、一日が大切なものになりました。女性であることを置き去りにしてきたんじゃないか、とか言っている場合ではなくなった。残り一年、もないかもしれないけど、それをどう生きるかに課題が変わってきました。

ワークショップに参加しようと思った頃は、好きな人がいたんですよ。若い人なんです。一四歳違うんですよ。あー、私、若い人好きなんだなって。

写真プリントって、暗室で好きな大きさに写真をプリントするクラブに入って。今はコンピュータになってるんだけど、カラーで、全部打ち込んで、液に通すときあがるんです。そこで、一緒だった人で、いつも外国に行っていて、そこで撮ってくる外国の人たちの写真が、彼らに向けているまな

ざしがとっても素敵で。

ときどき、映画でも行こうって誘ったりしました。どこにでも自転車で行く人で、新宿で待ち合わせたときに、来てないなーって待っていたら……今、これ、コイバナね。彼がやってきて、（自転車で来たら）汗びっしょりになったから、そのトイレで着替えてきたんだって。それで、あとでご飯に行こうって。

一緒に歩いていたら、チラシ配る人に「お母さん」って声をかけられて、私、「ほら、わたしたち、お母さんと息子だよー」って言ったら、「よっしーさんくらいの女の人には、みんなそう言うんじゃない」って。一緒にご飯に行ったときに、バイキングを取って来てくれたり。父ちゃんはしてくれなかった。

私、なんで若い人、好きなのか分かったの。

私が四〇歳のとき、父ちゃんが三九歳のときに死に別れて。父ちゃんと死に別れてから年取ってないんです。ここにいる、私となりにいる人は、四〇から五〇歳なんです。私はもう六〇歳なんですよ。自分の老いとかは見ないでね。

山中湖の別荘に誘ったの。すごいでしょ。でも二人って緊張するし、喋ることなくなると緊張するし、やめよっかって言ったの。そしたら「話すことなくなったら、話さなくて、だまーっていたらいいじゃない」って、「散歩したらいいよ」って言われて。そっか。それなら、って。二人で行ったよ。五八く

らいのとき。

犬がいたから、二人と一匹で散歩して。結局、私、父ちゃんのこととか話すこといっぱいあって、なくならなかった。「ごめんね、こんなウチワの話おもしろくないよね」って言ったら「ううん、聞けるだけでおもしろいよ」って。

「別荘についてても、何もないとこだよー」って言ってたから、彼が山の道具とか、鮭一匹とか、お肉とかを一式持ってきてくれて、ご飯つくってくれて。うれしいねー。

別荘のすぐそばに、石割山ってところがあって、おにぎりつくってそこに行ったの。急な坂で、彼が「よっしーさん、大丈夫？」って、手を出してくれて。でも私、「大丈夫」って言っちゃって。「元氣よー、わたし、そんな歳じゃないよ、体力的にまだまだよー」って。

ピースボードに乗った三ヶ月間も、私は彼に憧れてるんだーって、お守りみたいに思っていました。

書き手〓ふくちゃん

全ての時間に満足して

よっしー

「家族は大事に、女の人は泣かせない」

と長男に伝えた時、「つながつたよ、ありがとう」って。

でも下の子にはまだ言えなかった。

夫のDVのこと。そのせいか下の子は自傷がひどかった。

六〇歳で、ふうちゃんという友達とピースボードに三ヶ月乗ったとき、

「下の子にも話すべきだよ。子育て間違ってたよ。泣いていいよ」って言われて。

その時、私のどこに自分自身を置いていいかわからないし、胃でも内臓でも苦しくって辛くって本当に。

夫は給料も入れず、「産んでくれるな」と、叩く、蹴るの暴力を振るってた。佐賀の母には言えなかった。

ふうちゃんは、「夜中でもいつでもおいで」って言うてくれて、パジャマのまま二回くらい行ききたね。

結局は夫が家を出て行きました。

夫は、お義母さんと姉さんと三人で、昔できなかった家族をつくり直していたんだと思う。

二年後、私は「頭金ちょうだい」って夫に言って、府中に家を買ったの。夫は週一回くらい、家に来るようになってたけど、三八歳で、くも膜下で亡くなったの。でももう少ししたら家に戻ったと思う。私の勝ちね。

私は、「家庭だけは大事に」と育てられた。

「家庭も子ども大事にしてくれる」が、結婚の条件だった。

「ひとつ残し、ひとりじめはしてはいけない」と、母は精一杯の幸せを与えてくれた。

みかん山と田んぼの中で、「ここで私が力をゆるめたら、母がその分大変な思いをする」って、私は百の力で働いていた。小学校二、三年の時から。

母は七〇歳の時、お産の助けに来てくれた。年二回帰省した時は、「何で泣くの？ 何でいつも泣くの？ お金だったらいつでもあげられるから」と言ってくれた。

私は、「いつになっても、どこへ行っても恵まれているな」と思います。

全ての時間に満足して十二分に生きられました。

書き手Ⅱボラン

女手ひとつで二人の息子を育てあげた大きな愛情

よっしー

父ちゃん母ちゃんをやらなければならなかった経緯を聞いてね。

別居中にくも膜下出血で亡くなったの。二八才で結婚した当初から彼は「あんたの力量見せなさいよ」と言って給料はくれなかった。赤ちゃんが生まれるってことになったら「堕ろせ」「僕は親になりたくない」「これから人生楽しみたいのに何で拘束されなきゃならないんだ」って、叩くは蹴るは。夜中にパジャマで通りに出て、でもタクシー捕まえられなくて家に帰って、そんなの二回やったかな。夫は私の二歳年下。小学校一年生の夏休みに父親が死に、お母さんは生活のために上京、彼は秋田のおじさんのところで中卒まで過ごした、そんな人生。彼に「お父さん業」してもらおうと、週に一回ぐらいいうちに来てご飯食べてって連絡とったけど、子供の頃、他人のうちに暮らしたせいなのか食事風景が苦しいらしい。家族団欒じゃなくて気を遣う場面だったのかもしれない。二人目の時、また「堕ろせ」が始まったの。病気だと思った。「あんた一人でできるって言っただろ？」出て行けよ、出て行って一人で育ててみるよ」。

別居してからの彼は、お母さんやお姉さんやその子供とも行き来して。二年ぐらいして見えてきたのは、夫たちは昔できなかった家族を作り直してるんじゃないかってこと。そしてそのうち、うちに

も戻ってくると思ってた。その矢先にクモ膜下出血で、彼は三八歳、私が四〇歳。そうでなければきつと戻ってきてくれたらうなー、絶対帰ってくると思ってた。

長男は高校を中退してアルバイトを始めた頃、お酒飲んでふざけて駅前噴水の池に飛び込んで低体温症で意識不明。半日で意識が戻ったとき看護婦さんの「この人は誰ですか？」の問いに「僕の父ちゃん母ちゃんです」。看護婦さんは何ふざけてると思ったかもしれないけど、間違っていないし当たってる、よく言った！ 私は満足と納得。うちの語り草。下の子は自転車が好きで何度も交通事故にあってる。示談で警察に行ったとき、おまわりさんに長男と私が夫婦だと間違えられたことがあった。家族三人の笑い話はいっぱいある。

以前は父ちゃんのこと、息子たちに一生懸命嘘ついて繕ってた。「あんた、子育て間違ってるよ」と友達のおうちに言われて泣いたこと、泣いたこと。ふうちゃんは「泣きなさい」って言ってくれた。子育てはその子がどういう子育てをするか見届けて初めて、自分の子育てが良かったのか悪かったのかわかる。三〇〜四〇年続けてやっと結論が言える。

好きになった人もいた。一四も年下。私なんで若い人が好きなのかわかったんだ。父ちゃんと別れたとき、彼は三八歳。その時から年とってないんです。私と一緒に歩ける人は。

書き手〓チャコ

はじめての生理

よっしー

はじめての生理。私の胸が少し大きくなり始め、胸に物が当たるととても痛かった頃、保健体育の授業が男女別々の教室でありました。女性には赤ちゃんを産む準備として、生理があることを教わり、大人に近づいているようでドキドキしました。「生理ってどんな感じかしら」と、楽しみに初潮の日を待ちました。それとは反対に、生理用品を買うのが恥ずかしかった私は、「はじめての生理の日に、お赤飯を炊いて祝うなんてとっても恥ずかしい」と思っていました。中学一年生の夏休み。はじめての生理がありました。とても嫌なものでした。服が汚れてないかいつも心配。トイレに行くタイミングがわからない、周りの人に気付かれたくない。不快感と腹痛そして憂鬱な気分。そんな大変な日が、五六日間も続くので、一回で出せるかというのにも思いました。そんな嬉しくない生理のはじまりでした。こんな思いもあります。テレビを見ていて、いつもと変わらない女性アナウンサーの様子に、「生理の日を隠して笑顔で仕事をしている」「女性って、嘘つき上手だ」と驚いたことや、この様な、不快感や憂鬱・多くの気遣いに耐えて、「お母さんになる準備をするのだろう」「本当に女性って、凄いなー」と、思いました。生理はあれから、三五〜六年もの長い間続きました。

生と性をめぐるささやかな冒険

〈男性編〉

ただの人、である自分

けん

僕は、今年の三月に仕事を辞めた。辞めることを先に決めて、辞めたあと、どうするのかは決めていなかった。仕事を辞めると決めたあと、その決心は揺るがなかったが、辞めたあとに何をするのかはなかなか決まらなかった。次第に何も決まっていけないことが不安になった。そして仕事を探し、面接を受けたりした。どんな仕事ならできるか、どんな仕事なら採用してもらえそうか、そんなふうを考えていると、結局、辞める仕事と同じような仕事を探している時もあつた。それでは何のために辞めるのかわからない。でも、無職になること、何の肩書もない自分になることは、勇気がいることだつた。それは、何物でもない、ただの人、としての自分に自信が持てなかったからだと思う。結局僕は、四月から学生になった。もちろん学びたいことがあつたからだ。が、学生の身分を手に入れて、ホツとした自分がいたのも事実だ。僕はいずれまた、仕事の肩書を持ったり、失つたりするだろう。身分や肩書がなくても、ただの人、である自分に、自信が持てる、自分になりたい。無職万歳。

好奇心が止まらない

しげもり

先日 S M バーというところに行ってきました。で、そこでその道四〇年という方のお話をうかがつて、S M というのは、人間という哺乳類が本能的に持つてゐる、えー、オスと女のシステムを利用しているという話を聞きました。色々目から鱗のお話を聞いたんですけど、僕には S M の趣味はないので、これは実際役に立たない、知識かもしれないですけど、実に有意義な時間を過ごさせてもらいました。で、僕は最近好奇心が止まりません。で、色んなところに出かけたり、いろんな人と会つてみたいという欲求がすごい高まっています。やあ、そりゃあ、なんでかなつて思つたら、仮に人生八〇年としたら、僕はもう四十過ぎて人生も折り返しに入っているんで、なんとなくちよつとこう終わりを考え始めたのかなと思つています。で、今は世間一般的な意味合いでの財産とか家族とかそういうのを持ちたいという願望がないので、墓場に持つて行けるのがなかなあと思つたら、僕は記憶とか経験とか満足感かなあと思つているので、そういうのが欲しいのかもしれないです。で、まああの、どんなしょうもないことでも、死ぬ間際に、あれやつとけばよかったかなと思つことがないように、生きたいと思つています。で、とりあえず来週は、長野までアーチェリーを習いに行つてきます。

子供が生まれる直前、直後の話

やまも

俳優をしています。で、いま、もうすぐ四歳になる男の子の、父親、でもあります。で、子供ができて、生まれる、まあ、直前、前後の話をちょっとしたいと思うんですけど、あれですね、子供ができて産まれるちょっと前から、仕事をですね、してなかったんですね。正確に言うと、自分の入っている劇団の公演があつて、その前にちょっと仕事をやめていて、で、無職、みたいな状態になったわけですね。しかも、あの、俳優の仕事もない、みたいな状態になったんですね。ちょうどそれで出産予定日、八月七日だったんですけど、その日に、アルバイトみたいなことの面接を受けに行っただす。それは、葬儀関係の派遣の仕事だったんで、空いてる日を申告しておく、電話がかかってきて、仕事が入るってシステムで、二、三日はなんの連絡もなかったんですけど、ちょうど、こう、産気づいて、もうすぐ産まれるぞって時に電話がかかってきて、あの、明後日空いてるかって言われて、で、明後日って言われて、ああ子供、もう明日には、これはいま産気づいてるから明日には産まれんだろうなって勝手に、思ったんですね。で、あ、大丈夫ですって言っちゃったんですけど、どうも、話を聞くと、全然翌々日、明後日くらいまでになることもあると。で、実際、そうなっちゃたんですけど、要は始めたばかりの仕事で、こういう事情なんですけどってことを初日でそういうこと言えないあとと思っ

て、その後の関係を見ると。で、結局、受けたままで、奥さんが陣痛で一番つらい時間帯に、いなくって、大変、残念がられ、いまでも責められている、って感じなんですけど。でその後も、新しく始めた仕事のため忙しくって、まあ家事や育児をしてなかったと、ものすごい、ものすごい言われるわけなんですけど、それはね、たぶんお産のことをわかってなかったし、産後の生活みたいなことを、まあわかってなかったんですね。で、どうして、仕事を始めちゃったのかなっていうのを、後から、考えた、考えるわけなんですけど、やっぱり、食わせなきゃみたいな気持ちすごい、急激に、沸いたんだと思うんですね。それは、子供の父親に、なるのに、無職っていうのは、いかがなものか、っていう風に思ったんですね。でも、まあ冷静に考えてみると、あれですよ？ 育児休暇？ をとったりとか、するわけですよ。だから、それくらい、産後大変だっていうのはわかっているというか、大変なわけですよ。でも、まあ、仕事は、育児休暇ではなくて、ただただ仕事がないって状態、なわけですよ。でもまあ、貯金はちょっとはあったんですけど、ぜんぜん、一年無職だったら、大変困ったと思うんですけど一、二ヶ月、別に働かないで育児家事に専念しても困らなかったくらい貯金はあったんですけど、でも、その仕事しないっていう選択肢がこう、浮かばなかったですね、やっぱりその貯金が減る恐怖とか、仕事がないっていう恐怖に、こう、圧迫されていた、かなあっていうのを、いま、思っています。

おじさんがんばります

吉田

先日、久しぶりに、大坂に、帰った。JAで働いている、兄貴の家に、遊びにいった。新シリーズのスターウォーズ^{*}の、公開日と同じ日に生まれた甥っ子をあやした。甥っ子は、高い高いするとすぐ喜ぶ。で、こう、寝かせて、ハンカチでこうチョロチョロチョロ、チョロチョロチョロって口で言うのがポイントなんですけど、チョロチョロチョロってこうやるとすぐ、笑う。甥っ子をあやしているだけなんですけど、兄貴に五万円もらえました。うーんならうこの気持ち、おじさんがんばります。

*1 二〇一五年に公開されたアメリカ映画『スター・ウォーズ／フォースの覚醒』のこと。「スター・ウォーズ」シリーズにおける実写映画本編の第七作品目。

演劇家を名乗る

かっしー

色々考えて、あの変わってくる味覚の話とかそういう話をしようかなと思ったんですけど、自分の仕事についての話をちょっとさせて頂こうかなと思います。演劇をやっています、なので、演劇家と名乗ることにしたんです、いつからか。え、美術家とか音楽家っていうカテゴリーがあるように、まあ演劇をやってるんだから、演劇家と名乗ってもいいんじゃないかと思いついて、演劇家と名乗り始めたんです。そしたらですね、あその他の演劇をやっている方々にすぐにお会いしまして、その方々が「いかがなものか」とおっしゃるわけです。えー演劇っていうのはですね、ちょっと面倒くさい、感じまして、脚本家とか、演出家とか、俳優とかっていうですね、カテゴリーごとに名乗るんですね。で、総称して演劇家という風に名乗る人はほとんどいないです。で、えっとー、その僕は演劇家と名乗ることにしようかなと思ってるんだよって話をしたら、あの、何をやってるのか全然僕もわからないしねみたいな話をしたらですね、その人たちがですね「あなたがやっていることが別に演劇を代表するわけじゃないんだから、演劇家と名乗るのはいかがなものか」という風におっしゃるわけです。そんなつもりで演劇家と名乗るわけじゃないですね、色んなことやってるんじゃないんでしょがないんで演劇家と名乗る、ありがとうございました。

ある日、意を決して

かっしー

なんでスカートをはいてるかっていう話をしようかと思うんですけど。あの、最近服に興味を持つようになりまして、お金を使う大半が服っていう状態です。最初はアメカジとかですね。そうするとジーンズとトレーナーみたいな形なんですね。全然変わり映えしないわけですよ。古着屋さんですごく高いジーンズ買ったところで、ジーンズとトレーナーですから。なんにも変わらないわけです。次にハイブランドの服を見るようになるんです。古着屋で見つけちゃあ買ってくるんですけど、ハイブランドの服はね、入らないんですよ。すげー細いんですよ。入らないんですよ。で、しょうがないなあって、ヨーロッパ古着にいったんですね。ベストにジャケット。ここではたと気づくんですね。男物の服はバリエーションが少ない。で、民族衣装に関心が向きました。民族衣装を見ていくとですね、世界中、スカートが男性の正装だという民族が多くいることに気づいたんです。アイルランドのキルトとか、ハワイの人々とか、あの人たちはスカートなわけです。当たり前だけどね、ズボンの形よりもスカートのほうが作るのが簡単でしょ、だから民族衣装だと多いわけですよ。で、どうしてもこの形を取り入れたくなかったです。ヨーロッパ古着の店の片隅にスカートのコーナーがあって、目に留まったわけです。あれならいけるんじゃないか。あのスカートならなんとかなるんじゃないか。でも手に

は取りません。通ううちに、見に行く回数が増えてきます。で、そこのお店の人たちになんかこの人は不思議な服のセンスの服を買う人なんだなって、認識をしてもらうようにする。不思議なセンスのものが好きな人なんだなって認識されてったところで、ある日、意を決してスカートを手にしました。

人類の半分はいないようなもの

ジェリー

私には誕生日が四つあります。一つ目はこの世に生を受けた日、二つ目はお酒に酔わなくてもよくなった日、三つ目が四〇の手習いでフットサルを始めた日、四つ目が佐渡での太鼓合宿で新しい人間関係が広がった日。なんですね。でもですね、あの自分の性的指向に関係した日ってないんですよ。あの、そういう時期まであんまり意識しないでいた、というのと、時の流れとともにいつの間にか当たり前になった、まあそういうことだと思っくんですね。それでも、生きにくさというのを感じなくて済んだ理由が考えたら二つありまして、一つ目は私の性格だと思っくんですよ。座右の銘とかよくいいますね。で聞かれたら、無理を通して道理を引っ込めるみたいと言っちゃいますね。本当に真剣にそうしようなんて思っていることはないんですが、結構まじめにそう思っていると割とそうなっちゃったりするってことですね。もう一つ。人類の半分はいないようなもんだと思っくんっているわけなんです。ということ、あのみなさん、どなたも観客に人がいらっしやらないという、そういう状態だと思っくんていただきたいと思います。で、今回のワークシヨップですね、今の話、思っくんについて言っくんたんですが、結構納得しちやっくんたんですね。そうか、やっぱりそうだなあ。ワークシヨップでいろんな話を聞っくんたんですが、異性とかかわりあっくんって社会的にすごい面倒くさいことだらけだなあ。

私みたいに基本男性の中で生きてたら、とても住みやすい世の中だなあ。それが感想です。

六五歳まで大丈夫かなあ

ジェリー

今回のワークシヨップ、仕事を通して（生と性を）考えようというのは、あんまり面白くないなあと思ったんですよ。というのも、僕自身、仕事についてそんなに、苦勞してなくてなんとなく今まで来ちゃったっていうところが、あるんですね。転職は二回してるんですけど、社会出てからまあ三年後と六年後に転職です、それからずーっと、今の職場に、いるんですよ。で、もう一八年になりましたかね、その職についたきっかけっていうのも、ホントにもう偶然なんですね。リクルートに行って紹介してもらおうとなつて、担当者の人が付きますよね、で、ファイル持ってくるわけですよ、で、良さそうなものから普通持ってくるんですよ、でこれどうですか、これどうですかと、それ見てるうちにもう暫くしてやってきて、これもありますドサツ、とやった中に今の会社、ありましたんですね。うちは「これもあります」か、みたいな笑い話になったんですけど、その後も、会議で役員全員がいる前である役員と喧嘩しちゃったりとかですね、まあ、とりあえず、うまく行ってるってのは、私の会社、土曜日曜休みなんですけど、前回も今回（のワークシヨップ）も、全部有給とつて、来れましたんですね。ではまあ、非常に恵まれてるのかなと、それ以上はあんまりね、欲張ることもないかなと思います。で、先ほど四十歳で、八十歳だと折り返しつて話があつたんですけど、それで考えますと

ですね、私いま、五十歳で、会社にあと一五年いられるはずなんです、で、最近ちよつと思ってるのは、ほんとに六五歳まで大丈夫かなあということを最近ちよつと考えはじめたなあつてのに気づいて、やっぱりあの、実は年とるつてそういうところもあるのかなあというのを、思ったりしてるんですけど、まあそういうふうなことばっかり考えないようにするためにはですね、ぜひ次のワークシヨップあつたときは、また全部有給とつて来たいと思います。

女性のことがわからない

たんぼ

どうもはじめまして。あの、僕はね、女性好きなんですよ。でもね、女性、まあ僕的な考えなんですけれども、女性はわりと腹黒い人が多いような気がしちゃって。なんていうんですかね、わからない話をおとといに経験しましたので、その話をせっかくですからしうかと思うんですけれども、時間は夜の一〇時半くらいなんですけれども、夜道を歩いていたんですね、向こうのほうからちよっと素敵な女性が、微笑んでくるわけです。いや、信じちゃいけないな、もしかしたら私服の婦人警官じゃないかなとか、そんなことを考えて、気にすれば気にするほど目がいつっちゃうんです。よくよく見たら、なおかつそれ以上に素敵な笑顔でこっちに微笑んでくるわけですよ。僕もそれを見て、思わず微笑み返しをしてしまいまして、そしたらその女性が何を思ったんですかね、僕のほうに近づいてきまして。何を言ったと思います？「あなた、定期持ってる？」って聞いてくるんです。突然「定期持ってる？」って、意味わからないんで、定期？ ケーキ？ いや、とかいう風に話をしたわけです。そしたらまあ、これみなさんご存知ですか、今日持ってきたんですよ、二四時間乗れるっていうカードなんです。これを僕にくれるって言うんです。いや、定期持ってる？ ってやつと意味がわかって、僕は切符を買うタイプなんです。よって、それを言いながら、もしかしたらキセルしたのがばれたんじゃないかと

ないかと心の中で思っていたら、これをくれるっていうんですよ。でも僕はもらったらまずいだろうなどか思ったら、別の関係ない女性三人が話に参加してきました、もらうもらわないのやり取りに参加してきて、「あなた、人の親切は素直に受けるべきよ」って言うわけです。さだまさしもそう言ってるでよって、わけわからないことを言い出して、さだまさしにそんな歌あつたかなと思いが、私も、これをいただいたんです。で。どっかにつれてかれるのかなと不安だったんですが、「あなた、帰るんでしょ、帰りなさい」って言うんですね。帰っていいんですかと、帰ろうとしたら「ちよっと待ちなさい、人にやさしくされたら、今度別の知らない人にもやさしくしなさいだめよ、じゃあね」って帰ってっちゃった。僕はなんだったんだって思いながら、これを自動改札機に入れて、わりと混んでる東西線に乗って帰りました。いまだにあの女性はなんだったのかなと。女性のことがわからないんですけど、なおさらわからなくなったというようなお話でございます。

よくわからない

しら

お父ちゃん。お父ちゃんには愛人がいたよね。お母ちゃんちよつとかわいそうだった。お父ちゃん、お母ちゃんにあやまってたけど、そのあととも愛人に連絡取ってた。父ちゃんはおれはあいつでよかったんだって言ってたけど、もしお父ちゃんがその人と結婚したら、おれはいなかったっていうことになるよね。お父ちゃんが寝たきりになっておれとお母ちゃんて介護して、お父ちゃん何度も何度もお母ちゃんをどなりつけて、お母ちゃん本当にそれが嫌だったみたいで、お母ちゃん、お父ちゃんが入院してから五ヶ月間、死ぬまで一度も見舞いに行かなかった。でも、いま、お母ちゃん、仏壇の上のお父ちゃんの写真、毎日話しかけてる。お父ちゃんはさ、お母ちゃんは不感症だったって言ってたよね。おれはそんなこと言われてもどうやって返していいかわかんないしさ、お父ちゃんがそんなことを話すなんて、ものすごい意外だったからさ、おれはどうしていいかわかんなかった。お父ちゃんのこと、お母ちゃんのこと、よくわからない。

いまだにわからない

にらだい

えっと、僕が女性から言われて、いまだにわかんないなって思っていることを二つ話します。まず一つは自分の母親から子供のころに突然言われたことで、突然母親が僕のところにやってきて、「あんたもそろそろＡＶとか見るようになるのよね、でも、最初に言っとくわ。ビデオを見るほど気持ちいいもんじゃねえから!」、いまだにどう言ってもいいか全然わかんないです。もう一つは、大学卒業して三年くらいたって、学生時代に仲良くしていた女友達に会いました。で、お互い次の日仕事だからって言ってたんだけど、終電をなくすまで二人で酒を飲み、まあ金もないからビジネスホテルのツインを割り勘で泊まるうかって言って、泊まったんですよ。シャワーを浴びて、じゃあお休みと言って、うとうとしかけたところで、がばって後ろで起きた音がして。「本当に何もしない気!」って。どうしたらよかったのか、わかんないですよね!。

嫉妬とはなんでしょうか

てるぽ

生々しいかもしれない話をします。女の人に嫉妬をする、という話です。まちを歩いていて、若い夫婦が子供をつれているのを見たり、女の人が妊娠していて、おなかが大きいのを見るとその女の人に嫉妬の感情がわくことがあるんです。相手の男に対して嫉妬をするというのなら理解できる感情だという気がするんですが、自分の場合は女の人に対してなんです。理由は自分でもよくわからないのですが、自分なりに想像すると僕は非正規雇用で収入が低いんですけども、そういう格差と嫉妬の感情が結びついているのかもしれませんが。うまくいえないんですが、女の人はずるいと思うことがあります。女の人がうらやましい、といって、女の人を嫌いなわけではありません。女の人が好きです。嫉妬とはなんでしょうか。好きだから嫉妬しているのかもしれませんが。

男のクセに

すみた

男のクセに。男のクセにレディース定食食べてる。ネイルしてる。キャミソール着てる。更年期になってる。プラセンタ注射打ってる。乳がんになってる。障害者のクセに。障害者のクセに飲み屋にいる。告白（こく）ってる。婚活してる。風俗行ってる。障害者のクセに、不倫してる。精神障害者が車椅子や松葉杖を羨ましいと思う。身体障害者や知的障害者はある程度外見で認識してもらえるから。へっ、障害者のクセに差別してる。確かに!! 適応障害、うつ病、アルコール依存症、躁うつ病、つて診断されただけ。だまってるやわかりにくい。キチガイだけど、五体満足だし? だからこそ障害を伏せて就活もできるし、ナンパもできる。でも、隠し続けることが負担になり、結局具合が悪くなる。メンヘラのスパイラル。あーやりてー。でも相手なんていないから、代用品。ダッチワイフ? いや、じゃなくていまどきはラブドール。ちなみにメーカーや販売店によつてはラブドール購入の際に障害者手帳を発動することができる。最大手メーカーじゃ一〇パーセントオフ。うーん。五、六〇万ていつたら軽自動車なみの乗り物だ。ただ、医療機器というカテゴリーに持っていこうとする報道は、無茶だなあ。

父親が郵便局員でした

たばた

父親が、郵便局員です。郵便局員でした、退職したので。父の父は、農家でした。第二次大戦、行つてません、行かなかったのは、人づてによると、まあはっきりしたことはわかんないんですけど、なんか色々、目が悪いとか、身体がよくないとかいうことにしていたらしいんですけど、馬を育てていて、宮内庁かどこかに良い馬を納めてたつてこともあって、なんとか兵役を逃れたんじゃないかっていう話を、聞いたことがあります。で、母の父、母方の祖父は、兵役で取られて、シベリアに、えー抑留されてました。で、その時の話はどうしても、したくないっていう事を母から聞いていて、ロシアから帰ってきたので、当然、あの共産主義系の考え方をちよろつと引き継いでいたようで、そういう運動にも参加してたとも聞きました。僕がまだ学生の頃に亡くなったんですけど、えー、亡くなる一週間とか二週間くらい前に、入院してる時に、えー、もう近いから会いに行つとこうかっていう話をして会いに行つたときに、言われたことで鮮明に残ってるのが、てか、それしか言われなかったんですけど、「自衛官と消防士と警察官にはなるな」って言われて、いまのところならいられないです。え、どういう真意があったのかは、もう本人いないですし、他にその会話、あんまり聞いてた人いなかったと思うんで、わからないですけど、自衛官と消防士と警察官にはなるなって、言われてます。

アリとキリギリス

タニ

「生と性のワークシヨップ」ということで、性のセックスのほうもそうなんですけど、そっちももちろんワークシヨップで考えられたらいいかなと思つていたのですが、性の性差のほうというかジェンダー、文化的なほうのこと、あんまりこのワークシヨップでも深く議論したわけではないんですけど、そういうことを話したいと思います。というのも、去年いきなり親父が死んじゃいまして、今まであんまり父親のことを考えたことなかったんですが、やっぱり死ぬと少し考えることがあって、親父の人生ってどうだったんだろうなって、あの人、本当にやりたいことやったんだろうかなとか、思うんです。すごい会社人間で、ものすごく一生懸命に会社のために働いていて、なんのためっていうか家族のために働いていたんですね。もちろん、仕事が好きだったつてこともあるんですけど、自分の好きな山登りとかそういうことは犠牲にしていたんです。親父は中卒で、一五歳から関西電力という会社で働いてたんですけど、六五まで働いたんですよ。それってある意味すごいなと思つて、五〇年間、中卒の労働者が関西電力という大企業で働けるというのは大したもの、相当会社のために身を削つて養つて、俺を、というか俺一人じゃないんですけど、家族を養ってくれたんですけど、それで六五でやめて七四で死んだんですけど、じゃあ十年自分の好きなことをやって生きたのかとい

うと六五から足悪くなっちゃって、あの人つらかっただろうなって。で、おれ、そういう親父を見て育ったから、ああいう風な生き方はやだなって思ってた。なんか家族のために自分の好きなこと犠牲にすんのやめようって思ってた、この歳まで結婚もしないし、何にもなしで無責任に生きてきたんですけど、いまふと、親父はやっぱりえらかったなって思います。いま五〇なんですけれど、今度、逆に俺なんのために生きてんだろうというか、親父は家族のために一生懸命働くとかあったけど、俺はいつ死んだっていいし、この子が二〇歳になるまで生きていようとかそういうこともなくなっちゃって、本当、「アリとキリギリス」っていうか、いままでアリになりにくくないなって、一生懸命キリギリスみたいに生きてきましたけど、人生の秋がやってくると、この先どう生きていこうかなって感じですよ。

本当にお願したいんです

タニー

どうも、こんにちは。あ、このワークショップではタニーと呼ばれています。えっと昨日まで、フジロック^{*1}というのをやってたじゃないですか。で、フジロックにシールズ^{*2}のメンバーが出てて、で、そのシールズのメンバーが出るって言ったたら、音楽に政治を持ち込むなとかいうような反応がTwitterとかに流れたりして。馬鹿だなーと思うんですよ、音楽に政治を持ち込むなとかいうの。で、俺は今日、この作品に政治を持ち込むと思うんですよ。それもかっこいい政治じゃなくて。「ハリウッド映画における女性の表象」とか、そんなキザなヤツじゃなくて、もっと生々しい話をしたいと思うんですよ。なんでかっていうと、俺、大阪出身なんですけど、だんだん大阪のこと嫌いになってきて。この前の参院選で、大阪は、自民と公明のほかにおおさか維新の会が2議席取ったんですね。恥ずかしいですよ、俺ほんとうに。なんだよって感じですよ。で昨日ニュース見たら、門真市長選と大阪府議の補選かな、これも両方、おおさか維新が勝ってるの。ほんと、もう終わったなと思いますよ、大阪。でもシールズの奥田くんの言葉を借りたらね、終わったんだったら、もう一回始めりゃいいじゃないかってことですよ。で、どっから始めるかと言ったら、今度の都知事選でしょう。大阪のことに*4
して悔やんでるのは、維新が2議席取りそうだったときに、俺、高校の友だちとか家族とかに、あ

つら危ないから絶対入れるなって電話しようと思ったんだけど、なんか恥ずかしくてできなかったんですよね。でも今回の都知事選^{*5}、ほんとに言いたいんですよ。小池百合子はダメでしょ。小池百合子のバックには日本会議^{*6}みたいな極端な右翼がついてるし、作る会の教科書^{*7}を採択させるような会もついでるし。右翼だよ、ただの右翼じゃないよ、ものすごい右翼だよって言うんだけど、そういう風に言っても、「女の人だから無茶なことしない」って反応が返ってくるんですよ。そんなところに男も女も関係ないでしょ。で、どうなると思います、小池百合子が都知事になったら、ねえ。石原のときから、卒業式で日の丸君が代強制されて、それで停職処分くらって、ものすごいしんどい目に遭ってる人いるじゃないですか。そんな政治がまだ続くんですよ。作る会の教科書で子どもが勉強するようになりますよ。俺、大阪の実家に甥っ子がいるんですけど、作る会の教科書を使いそうなんですよね。もう耐えられないですよ。だから、ほんとうにお願いしたいんですよ。もし小池百合子に投票しようと考えている人がいたら、考え直してほしい。東京の都知事が彼女になったら、東京が大阪になると思う。とめどなく負けていくと思う。都知事選に負けて、次の都議選も負けて、という風にどんどんなっていくと思う。だから、ここで勝つとかないと。シールズ風に日付と名前を言って終わりにしますね。2016年7月25日、タニ。

- *1 フジロックフェスティバル…二〇一七年現在、日本最大規模の野外音楽イベント。毎年夏に、国内外から、ロックのみならず多様なジャンルのミュージシャンが集まる。
- *2 自由と民主主義のための学生緊急行動、略称…SEALDs。第2次安倍内閣が提出した特定秘密保護法が参議院本会議で可決された二〇一三年二月六日に発足。安全保障関連法や憲法改正に反対する運動を続け、二〇一六年八月解散。
- *3 二〇一六年七月一〇日に投票が行われた第24回参議院選挙では、右派寄りのおおさか維新（二〇一七年現在、大阪維新）の新人二人が当選し、左派の民進と共産両党の候補が共倒れに終わった。
- *4 二〇一三年二月六日に成立した特定秘密保護法に反対する「民主主義が終わった」との声に、シールズの主要メンバー奥田愛基が「終わったんなら、始めるしかないじゃん」と、渋谷でデモを企画した。
- *5 二〇一六年七月三十一日に実施された東京都知事選挙のこと。無所属の小池百合子が当選した。
- *6 一九九七年に設立され、美しい日本の再建と誇りある国づくりを掲げて政策提言と国民運動を行う民間団体。
- *7 新しい歴史教科書をつくる会…一九九六年に結成された社会運動団体。従来の歴史教科書が「自虐史観」に基づくとして、新たな歴史教科書をつくることを運動の目的としている。
- *8 石原都政の元、二〇〇三年一〇月二三日の都教委は「国旗掲揚、国歌斉唱に当たり、校長の職務命令に従わない場合は、服務上の責任を問われることを、教職員に周知すること」と通達。入学式や卒業式などの行事の際は「国旗に向かって起立し、国歌を斉唱する」ことを指示。命令に従わなかった教職員を戒告処分した。

決定的な想像力の欠如

オカさん

今一番悩んでるっていうか大変なのは、八十半ば過ぎた母親の介護で、杉並の実家で一人暮らししてたんですけど、流石に一人だと無理だということで、まあうちの近く、杉並と世田谷の間ぐらいなんですけども、三鷹あたりのホームに暮らしてもらってるんです。基本的には自由なところなので、僕が行って食事を届けたりしなくちゃいけないんですが、ある時気づいたんです。僕は母親の好みを知らなかった。食べたいだろうなあ、きつと好きだろうなあ、これ絶対おいしいと言うはずだ、というふうに思ってた買ったものが、実は違ってたっていうのがすごく多くて、多分、母親が一方的に僕の好みをよく知っている、えー自分の子供とかいうか、自分の息子が好きで何が嫌いだったっていうのは、今でも、口にしたりする。で僕も、ずーっと母親がこれは好きだったっていうふうな記憶でそれを買ってくんですけど、実は嫌いだったということがある。これどういうことかっていうと母親は、無理して食べていた、あるいは、僕が残したからそれを食べた。でそれを見る僕は、えーと、母親もそれを好きだったんだなあと思っていたっていうこと、そのくらいなんか母親と子供の関係ですか、近いんだけど、決定的になにか想像力を僕は欠いていたっていうふうに思う。そこで目に見えていることをそのまま受け取って、それ以上何か、向こう側を見ようとしなかったんだなあと思った。

さっきタニーさんが言う、まあ政治の話だけど、やっぱり今、僕らは、僕らっていうか僕は、想像力の欠如っていうか、どのくらい辛いのかとかどのくらい苦しいのかとかを、想像することをまあ放棄してしまってる。あるいはもともと能力がないのか。今だったら、トルコで、クーデターがあったんですけど、クーデターをした兵隊は一兵卒を含めて虐待されてますよ^{*}。で、人々に殺されているわけ、首とか切られちゃって。で、いま五万人くらい、いわゆる警察官とか消防士とか様々な公務員、だから教師も、それから大学の先生も停職処分になる、これ全く異常な事態で、これに対してこの国、東京オリンピックの誘致に協力してくれたからか、安倍氏（安倍晋三）はすごく仲が良いらしいからか、何も言わないというのはおかしいですよ、クーデターってのはもちろんすごい犯罪にはなるけども、僕らの国っていうか、ようやくここまでしてきた国っていうのは、それでも法律に則り何かするっていう約束があった。法律があるうがなろうが、自分たちの考えや気持ちで何かしてしまう国はやっぱりまずいですよ、まだ、アフリカやなんかそういう国はたくさんあるし、だけどそういうものを許す風土とか、もしかしたらこの国も、今日も、男らしさとか、いろんなことが言われているけど、野蛮な男らしさみたいなもので想像力を欠いた人間がですね、恋をするような状態って一番まずいなあっていうふうに思ってた、まあそんな話をするつもりはなかったんだけど、タニーさんの話に触発されて、今明らかに、その想像力を欠いた人間がより強くなろうとしている。これだったらやっぱりもう、たぶん戦争ができない国はずっと「女々しい」、まあカッコ付きですけど、日本が女々しい国だと思ってる、それ嫌なんだろうけど、女々しい国なんてやっぱり素敵ですよ、やっぱりそれは。それはすごく

大事なことだと思って、ここまでようやく、女々しい国なんてなかなかないんだから。永世中立国のスイスだって、みんな徴兵制で鉄砲の練習するんだけど、僕らすごく女々しくて、その女々しさ、大事にしてもいいはずなのに、男になろうなんてちょっと、変だなあと最近思っています。

*1 強権的なエルドアン政権に対し、二〇一六年七月一五日に軍の一部により起きたクーデター未遂事件。関与を疑われた人々は厳しい処罰を受けた。

男であるということから逃れることができない

ジャスミン

こんにちは、なんで男の人って大文字の政治の話とか、仕事の話でばかり自分のことをしゃべろうとして、なかなかホントの自分について喋らないんだっていうことが、昔から、不思議です。で、それだけで男の人がすべてだって思われたくないんで、ちょっと個人的な話をします。私の性自認は男性で、そして恋愛や性愛の対象は、女性に向けられます。けれども、同時に自分が男性であることをどこかで受けとめきれない、認めがたいと思っている部分があるのです。小さい時から、外で遊ぶよりも部屋の中や図書館で遊ぶことの方が好きでした。サッカーより教室の中で本を読んでいる方が好き、そんな子供でした。女の子にも憧れていたと思います。可愛らしくおしゃれもできて、友達と楽しくお喋りをする、同世代の男の子たちよりずっと大人びて見えて素敵。中高は男子校でした。男の子の無神経にも見える側面が見える度にそれが酷く嫌でした。大きな声で性的な冗談を言っただけでラゲラと笑う、日に焼けて髪を短く刈って、お揃いのエナメルバックを下げた彼らがとても野蛮で下品な存在に見えました。けれども、私も彼らと同じ男であるということから逃れることはできません。それどころか私の肉体は私の精神とは裏腹に、成長し骨ばりごつごつとしてそして日に焼け、男であることを主張していました。だから私はなるべく洗礼された所作と中性的な言葉の選び方をできるよ

うに苦心しました。女の子という生き物が好きです。退屈な日常をお喋りの魔法で色鮮やかな世界に変えてしまう、好きな人のためにどんな服を着ていくか一日かけて悩むことができる、自分をどう見せたいかでメイクを変えて別の自分のようにもなれる、シュッとしている、可愛らしい、セクシー、一人の女の子が様々な顔を持っています。女の子と仲良くなりたい。けれども私は男でそこに必然的に恋愛のニュアンスがつきまといきます。もしそれがなければどれだけ自由なことか。けれど私は性の対象としての女の子も好きなのです。月並みな痴話げんかに聞こえるでしょうが、酷く傷ついた言葉があります。「セックスだけしたいなら他の女をあたって」。ドキリとしました。そんなつもりはなかったと申し開きをすることはできませんが、なにより自分が相手にそう思わせるような存在であると、加害的な存在として女の子の前に立ち現れる存在でもあると、そんなことに驚き、戸惑い、狼狽し、何か罪の様なものを感じました。性愛のリスクは、ほとんどの場合女性が負います。男性はいつでも侵犯的、侵食的、で、そして暴力的でさえもあります。自分にもそれが確かにあることを私は知っています。それがたまらなく嫌で恐ろしいけれど背負って生きていかなければいけない、性愛がなければいいのと思うこともたくさんあります。そうすれば男と女という生き物はもっと親愛の情をもって暮らしていくことができるのではないのでしょうか。けれど同時に私は性愛に惹かれてやまない自分がいることも知っています。それどころか私は人より愛情が過剰な人間です。自分が人を好きになるほど愛することによってどこかで慎重になっていると思います。自分はたまらなくこの女の子を愛している。けれども私は加害的な存在で、暴力的な存在で彼女をまた損ねて傷つけてしまうかもしれない。そう思う

と私は自分が人を好きになっていいのかわからないことがあります。答えは未だに見つかっていません。

自分のポジション

せつきー

昔、芝居をやめようと思っていたときに『コーラスライン^{*1}』を観たんですね。

その中で市村正親さん演じるゲイの青年の告白シーンがあつて、それに感銘を受けたんです。その舞台に登場する人物たちは性別も国籍も背景も違うし、それぞれみな悩みも抱えててひとりひとり違うんだけど、それがどれだけ大事かということに。

それでまた演劇に戻ろうとしたんですが、セクシャルマイノリティという前提で作品をつくれるところがあったんです。それで自分で劇団をつくりました。

セクシャルマイノリティを題材にした演劇っていうとリブみtainな主張や啓蒙が先に立ちがちなんですけど、でもそれだったら文章でもいいわけで。かといってレビューをやりたいわけでもないし、生き方と演劇を分けないようなことをしたかった。演劇でメッセージを伝えるためには感動が必要なんです。で、感動するポイントは共感や同じ部分なんです。ゲイの演劇をつくるためにはゲイとしての違いを押し出すんじゃなくて同じところを見つけることなんだと思う。でもやっぱり違うと思うところもある。演劇やっている人はみんな新しい芝居を書くことに苦労しているんだけど、でも僕は今まで出てきたい

んなドラマをゲイの話にすればいくらでも書ける！　って思ってたんですね。えらくなるためにはカミングアウトしないっていう風潮ですけど、僕はオープンにすることで私生活も演劇も楽しくなりました。

最近、おばさんの役をよくやっているように言われることもあるんですが、外部で客演するときはおばさん役しかやりません。おじさん役のオファーがきても断ります。それはなんでかっていうと、おじさん役は自分より上手い人がいくらでもいるから。でも僕にしかできないおばさん役はある！　という自負があります。ただ、ゲイ＝女装っていうのはいやだった。それはステレオタイプだし、なにかはやりたいけど、でもドラァグクイーンではない。昔の女形なんかはどう見てもおじさんだったり、そんなに女オンナしていなかったのも多くて、女らしさというところより、「女なんだ」というところをやっちゃえば通っちゃうんですよ。そんな女は現実にはいくらでもいるっていう、その面白がりようなんだと。その芝居の中でガタイのいいおばさんをやるのが、他の誰かではなく、僕がやる意味のあることかなって思っています。

でも、そんなにおばさん役しかしてないようにみえるのかなあ。

書き手＝しげもり

*1 コーラスライン…一九七五年にブロードウェイで初演。人種や性別、セクシュアリティをもつダンサーたちが、コーラスラインのオーディションに勝ち抜くまでを描く。日本では一九七九年に劇団四季が初演。

セクシャリティと役者は切り離さない

せつきー

このワークショップでの女性、男性という分け方については、募集に「性自認」とついていたりと、配慮は感じたし、何かを除外するんじゃない、便宜上の分け方だと思ったし。

例えば、「セクシャルマイノリティ編」とかつくたとする。そうすると、応募する人はカミングアウトすることが前提になっちゃう。世田パブ的には、現時点ではこれでいいんじゃないかと思います。ただ、男女どちらの性自認でもない人もいるし、それは今後の課題だと思う。

僕は、今までセクシャルマイノリティを演劇とつなげることを目的としたワークショップは、あまりやったことがないので、今回の企画で何かしら作品化されていくのは、面白いと思う。

フライングステージでは、ヘテロセクシャルをゲイが演じたりもする。違和感も含め、演じるセクシャリティと本人のセクシャリティの違いを越えていくおもしろさ。誰がやるのも変わらないってことを伝えるようなミックスしています。

フライングステージのために自分でストーリーを考えるときは、ゲイとヘテロの違うところを際立たせるより、ここは同じだね。つていえる共通点をメインに置いて、もつというゲイじゃなくても成立するような話にする。そこが大事なのかなと思う。

一度、演劇を辞めようと、ボーナスをもらえるような仕事しようって考えたこともあったけど、やり直すことにして、そのときからセクシャリティと役者は切り離さない。舞台で主張したいなら、感動させたい。感動させるためには、共感させたい、そう思ってます。

書き手 〓 わっち

*1 劇団フライングステージ…一九九二年に、関根信一が中心となり立ち上げた、カミングアウトしているゲイの劇団。関根の作、演出、出演により、ゲイであることをテーマにしたオリジナルの演劇作品をつくり続けている。

人のありようとして、自然な私たち

せつきー

高校生の時、四季の『コーラスライン』を見に行ったのね。それはたまたま、ほんとたまたま、かぜ耕士^{*1}さんがラジオで勧めてるから見てみよう、となったのだけど。それが、ものすごくよくて。一人一人が違うけれど、それが大事なんだ、っていう芝居で。

自分は本来こうなのだ、ということに、性の目覚めとともに気づくのですね。だから、先天的か後天的か、でいったら先天的なのかもしれないですね。ゲイとかトランスジェンダーがいる、ということ自体が、人のありようとして、自然な形なんだろうなあ、と。

「府中青年の家裁判^{*2}」っていうのがあって、それを傍聴しませんか、っていう募集が、雑誌にあったのね。それで行って見たんだけど、ゲイやレズビアンの人と昼間会う、っていうのが初めてで、それはとてもドキドキすることです。

そのときに知り合った人たちから、演劇やつてるならちょっと見てもらえませんか、って言われて、演劇を再開して。でも一度やめて、もしまた始めるなら、ゲイだってことと創作活動を必ず結びつけ

る形でやろうって決めてたので、それでもいいなら、ってことで参加しました。それが今の劇団の元になってるんだけど。

おじさんの役なら僕よりできる人がいるからやりません。ほんとにそう思うの。でも僕じゃなきゃできないおばさんっているんですよ。なんか、ガタイのいいおばさん、つてのをやる方がいいな、と思つて。それはほんとに勝手に思っていて。

あえて女形みたいなことしなくっても、女なんだってことをバシッとやっちゃえば通る、と思つてるのよね。

書き手Ⅱやまも

*1 かぜ耕士…一九四四年七月一三日。 作詞家・放送作家・ラジオパーソナリティ。昭和四八年から昭和五三年までニッポン放送の深夜番組「たむたむたいむ」のラジオパーソナリティを務めた。

*2 府中青年の家裁判…一九九〇年二月、東京都の公共宿泊施設「府中青年の家（閉鎖）」を同性愛者の団体が利用した際、他の利用者からセクシャリティを理由に嫌がらせを受けた。同性愛者の団体は青年の家側に対応を求めたが、今後の利用を拒否されたために提訴。一九九七年九月の二審で原告団体の全面勝訴。

“男性”も簡単じゃないんです

せつきー

演劇に本格的に関わるようになったのは、舞台『コーラスライン』を中高時代に観てからのことですね。はじめは別に『コーラスライン』がどんな作品かも知らなくて、好きだったラジオ番組のパーソナリティがおすすめているからっていうだけの理由で劇場へ足を運んだ。そこではじめて観たんです、舞台の上で胸をはって自分のことをゲイだっているひとのこと。ちょうど、そのころ、登校拒否のようなことをしたりしていて、学校ではオカマってバカにされたことも沢山ありました、だから、自分にはそれが衝撃でした。そして、自分も、あの場所に立とうって思いましたね。それから、自分でも舞台に立つて作品を書いたりするようになりました。

矛盾するようだけど、でも、演劇の現場では、しばらく自分がゲイであることは言いませんでした。演劇の世界で偉くなるには、カミングアウトしないほうがいいって思っていたから。それから、ちょっとしたことがきっかけで「府中青年の家」裁判に、傍聴人のひとりとして参加しはじめて、運動とも接点を持つようになります。昼間堂々と自分たちが同性愛者ですということを公言するのが、運動のひとたちでした。ゲイの公民権運動、一種のリブみたいなものですね。あとは若いセクシャルマイノリティ

のひと向けに居場所づくりを支援するような活動に取り組んでいたこともあります。いまはもうやっけないですけれど。

演劇の道では苦労したことも沢山あります。通っていた新劇の養成所で進級できなくて悔しくてグレてやろうと思って、二丁目に入り浸っていたこともあります。「君、演技力はあるんだけどね……」って言われて。結局、養成所って進級するには推薦が必要で、推薦をするのは講師の先生なんです。まあ、グレてみても、結局、友だちが増えたただだったんですけどね、ふふ。途中で一度は本当に演劇がいやになって、もうやめてしまおうと思ったこともあります。でも、ゲイの知り合いに「演劇をやりたいがっている友だちがいるから、経験者として手伝ってあげてほしい」と声をかけられて、結局、演劇を続けて。それがいまの劇団を旗揚げするきっかけになりました。

いまの劇団では、ゲイであるということをオープンにして、ヘテロのひととゲイのひと、それからレズビアンの一とや、それ以外のセクシャルマイノリティのひとと混ざって一緒に演劇をしています。私の劇団では、たとえば、ゲイのひとがヘテロのひとを演じることもあれば、ヘテロのひとがゲイの役を演じることもある。ゲイのひとがヘテロのひとを演じるのは、うん、まあ、ありえることじゃないですか。でも、ヘテロのひとがゲイのひとを演じるのはやっぱりみんなあれって思う。違和を覚える。その違和感を大切にしたいなと思っていて。違和を作品にまぶしていくことで、みんなが思っている「当たり前」

に問いをつきつけたいのかもしれません。ただ、ゲイの劇団だから、何か特別なことをみせるかっという、むしろ、ヘテロのひとたちと、ここはおんなじだね、地続きだよねっていうことをみせるような作品づくりをすることを心がけています。もちろん、ちがうよ、ってゆずれないところもあるんだけど。そういうことをみせることでお互いに遠ざけ合うことをやめて、理解しあうための第一歩になると思っているのかもしれない。あと、もうひとつ、劇団で芝居をつくるときに、すごく大切にしていることがあって。私は伝えたいことが何かのメッセージだけなら、それは内容を書いて、相手に渡せばいいじゃんって思ってしまうんです。たぶん、演劇をするっていうことはそういうことじゃない。ことばにしたいんだけど、ことばにならないこと、ことばにどうしてもできないこと、そういうことを台詞だけじゃなくて、舞台の全体で提示する。ひとつの景色としてみせたいと思っています。作品をみてもらうことで単にメッセージを受け取ってもらうだけじゃなくて、やっぱり、そこで感動してもらいたいとも思っています。感動するっていうのは、ほら、あとで思い返したときに「ああ、あそこは笑えて面白かったなあとか、あそこは悲しくて涙が出たなあ」とか、そういう心の動きのことだと思っています。

そうやって、ゲイと演劇を切り離さないようにって決めだし、切り離せないってことに気づいたんですね。そうしたら、一気にまた演劇がおもしろくなった。もう、なんでも書けるって思いましたね。

そんなふうに普段は演出家、脚本家として演劇に携わったり、あとは高校や大学に行ってお話をした

りしながら生活をしていて、それで、今回、このワークショップの「男性編」に進行役のひとりとして関わらせてもらうことになって、こうしてみなさんとお会いしています。「男性編」っていう区分けの仕方について語るならば——それは「女性編」って区分けの仕方について語ることもあるんだけど——参加者募集のためのフライヤーに、たとえば「女性編」なら、参加対象者は「性自認が女性の方」って、ちゃんと但し書きがしてあって、現時点で社会ができる配慮は、ある程度なされているのかなって思いますね。たぶん、この場合の「女性編」とか「男性編」っていうのは、暫定的な区別なんだと思う。

ちょっとだけ、うん、思ったんですけど、たとえば「セクシャルマイノリティ編」ってしたら、どうなるかなって。そしたら、逆にどれだけ集まるかなと思うんです。つまり、もし、そうしたら、参加するひとは申し込みの段階で必然的に自分がセクシャルマイノリティであるっていうカミングアウトをしなければいけない。参加にカミングアウトが伴うことになるじゃないですか。果たして、それをできるひとがどれだけいるかな、とか、そこで生じるかもしれない問題とか、そういうことを考えたなら、現状の「男性編」「女性編」という区別は、まあ穏当なのかなとは思いますが。ただ、あくまでも穏当なだけであって、たとえば、性自認がどちらでもないよ、ってひととか、選べないよっていうひともあると思う。そういうひとにとっては今のシステムのままだと参加しにくいということは事実だろうと思うから、だから、これからも考え続けなくてはいけないでしょうね。

結局ね、「男性」も簡単じゃないんです。もちろん「女性」も。決して「男性」であることや「女性」であることは一枚岩なんじゃなくて、そのうちに、そのなかに様々な多様性があって、たぶん、グラデーシオンみたいになっている。そういうふうにして、私たちは「性」を生きているんじゃないかなって思うんですね。

随分と余計なことまでしゃべりすぎちゃいました。ちょっと早すぎたかな。でも、いつもだったら、こんな話をもっと時間をかけてしゃべっちゃう。だから、質問しながら話を聞いてくれて感謝です。ありがとうございます。

書き手〓ジャスミン

女形はやらないで

せつきー

そういう人いるんです。

お婆さんの役しか引き受けないんです。おじさんの役ですか？ お婆さんの役ですか？と聞いて、おじさんの役ですって言われたら、他にもっといい人がいますからって。

役者さんには、女形はやらないでくれって言ってます。演劇なら、足を開いて立って、女ですって言えばそれでいいんです。そういう人いるんですから。

書き手〓ジェリー

私にやれるおばさん

せっきー

なぜオバサンの役をやってるかっていうと、オバサンの役しか引き受けないからです。キャスティングのお話をもらう時に聞くようにしているんです。それはおじさんの役ですか？ おばさんの役ですか？ って。で、おばさんの役だったら引き受けます。

おじさんの役なら私以上にやれる人はいいと思います。でもおばさんなら私の可能性もあると思うんです。

いるじゃないですか、おじいさんんだけど、おじいさんんだかおばあさんんだか分からない人って。

おばさんなら私にやれるおばさんはいます。

え？ でもそんなに聞くの？

書き手Ⅱかつしー

一人一人ちがうけど、みんな大切な存在！

せっきー

このワークショップの進行役を引き受けることに特に逡巡はなかったです。

〈女性編〉に対しての〈男性編〉ってことなのかなと。

男性をセクシャリティーで分けてどれかを排除したりするのではなくて

単に女性・男性で分ける。

セクシャルマイノリティーに限っちゃうと、手を挙げにくいでしょうし、集まりづらいでしょう。

トランスジェンダー用のトイレを作ろうって運動があったけど、それって違うと思う。

どんな人でも使えるトイレが一番良い。

セクシャルマイノリティーとして参加する為には、カミングアウトしなくちゃいけないし

そんな試すようなのは嫌。

〈女性編〉〈男性編〉で良い。どっちでもないって人もいるけど……

セクシャルマイノリティーに対しての配慮はちゃんとされてると思う。

昨今は男の定義も揺らいできているから

セクシャルマイノリティーだって普通に存在できるようになってきそう。

男性の区分に、ゲイもセクシャルマイノリティーも入っていきける。

セクシャルマイノリティー向けのワークショップとかは特にしてない。

コミュニティの中で話すことはあっても、それで演劇を作るってことまではしてない。ウチの劇団はゲイだけが出演してるわけじゃない。ゲイもヘテロもミックスされてる。

ヘテロセクシャルなのにゲイを演じるって違和感がおもしろい。

普通になんでもありじゃない？ って意味。

自分で本を書いて、そういう前提で作品が作れる。

セクシャルマジョリティーと違うところよりも、同じところを見つけて作品を作っていく。ちがうところもあるけどね。

セクシャリティーの種類を説明すると

ヘテロセクシャルは異性愛者。男が女を、女が男を好きになる。

ホモセクシャルは同性愛者。学術用語なんだけど、差別的イメージがある。

だから同性愛者は自分たちのことをゲイと呼び始めた、男を好きな男も、女を好きな女も。女を好きな女はレズビアンとも。

トランスジェンダーは、身体が男で心が女の人や、身体が女で心が男の人のこと。

バイセクシャルは、男も女も両方好きな人、ご飯もパンも好き、みたいな。

アセクシャルは恋愛感情や性欲が湧かない人のこと。

トランスベスタイトは、女性の格好をしたい男性や、男性の格好をしたい女性のこと。

社会的な規範から離れて、本来どうしたいのかに気付いた人が

セクシャルマイノリティーを自覚していく。

ゲイとは生き方。

男色文化は有史以前からある。天平時代、奈良時代にも普通にある。

明治時代、薩長が中央に進出してきて、男色文化は薩長が主になった。

寄宿舎での同性愛なんかが森鷗外の小説にも書かれているけど

西洋のキリスト教的価値観が広まるにつれ、同性愛は社会的に白眼視されていたし大正時代になると「産めよ増やせよ」という国策にも合わず、変態行為とされていった。

一度、俳優やめようと思った。

アングラ劇団で白塗りして、フンドシひとつで立ち回りしたりもしてたんだけど（笑）
所属してた新劇の劇団でなかなか進級できなかったりして

「関根は成績はいいんだけどな」って言われるのに……

それでグレて二丁目でバイトしたけど、友達が増えただけだった（笑）

アマチュア劇団をやるうとしてた 게이 たちを手伝ったりしたのがきっかけで、俳優に戻ろうと思った。

ワークショップで、自分の俳優としての適性についての作文を書いたんだけど、
もう受からなくてもいいやつて思っ、 게이 であることを書いた。

それまでは自分が 게이 だとオープンにはしていなかった。周囲の人たちは知ってたけど……
学生時代、オカマといじめられて登校拒否してたし……

でも俳優に戻るならこれからは俳優と性を一緒にしようと思った。
オープンにしたら楽しくなった。素直におもしろかった。

劇団四季の市村正規さんが出た『コーラスライン』を観て思った。

一人一人ちがうけど、みんな大切な存在！

僕とは何か？ 게이 ですよ！ それがアイデンティティー！

게イ の何かを訴えよう！ 言葉で済むなら紙に書いて配ればいい。

言葉にならない思いを芝居にしよう！ 感動させなきゃ演劇ではない！

舞台の上は特別なんだ！ 共感できればみんな同じなんだ！

なんだって 게이 に置き換えれば、僕はなんでも書けると思った。

今はオバさんの役しか受けない。オジさんの役なら自分よりもっとできる人があるから。

私には篠井英介さん^{*1}みたいな女形としての裏付けの素養はない。

女なのか男なのかどっちかよくわからないオバさんっているじゃない。

英太郎や花柳章太郎のような新派の女形は、男が女形を男のままで演ってた。

女ですよ！ って言っちゃえば女になる。

歌舞伎の女形の技を使っちゃダメ！

普通に立つただけで女になる。

そのおもしろがりようが大事。

게イ の役は始めたけど、女装は絶対にしないって決めてる。

ちょこちょこと女っぽいアクセントを入れたりはするけど、盛大に着飾ったりはしない。
ドラアグクイーンとしての形を作ることに興味はない。
ガタイのよいオバさんこそ自分が演る意味があるポジションかな。
そんなわけでオジさん役は全部断ってきたので、
もうオバさん役のオフアーしか来なくなりました（笑）。

書き手Ⅱ祝大輔

*1 篠井英介…一九五八年～。現代演劇の女形として活躍。宗家藤間流師範名取。

あら、しかたないわ

きいちゃん

関根さんの劇団「フライングステージ」の芝居を、もう二十年くらいみています。特に関根さんが最近どんどんおばさんを演じてて、素敵だなと。関根さんに女、おばさんを感じます。つい先々週に観た『新・こころ』*1。いくつかの役を演じる中、下宿屋のおかみさんも関根さんがやっていて、漱石の本を覚えている方もあると思いますが、Kが自殺したあとに、関根さんはじゃなくて、おかみさんは確か「あら、しかたがないわ」のひと言で終わってしまうんです。僕はここが男と女の違いだな、わかりやすいなと思っていました。

あと一つは、先週七日に誕生日を迎えて五七歳になりましたが、その日に人生「初体験」をしました。劇団です。手術後、一晩は安静状態に、身動きしてはいけませんと、ずっとベットで横になり、おしよいうすいをしたくなると看護師さんがやってきて尿瓶をさす、すると、ああ、やっぱそのとき僕も男だったなと思いました。

*1 新・こころ…二〇一六年、新宿の多目的な空間「SPACE 梟門」のオープニング企画として、劇団フライングステージ独自の目線で演出した夏目漱石の『こころ』が上演された。

いろんなセックスがある

せつきー

僕はゲイなんです、僕はゲイだつてことを、今こうして普通に言ってるんですが、十代、僕はゲイだつていうのがとても嫌でした。僕は女の人になりたかつたんですね、ゲイっていうと東郷健^{*1}さんだとかおすぎとピーコ^{*2}さんとか、この人みたいになりたいっていうのが、全然ビジョンとして持てなくて、僕は女の人になりたかつたです。でも、今から三十年前、性転換の手術は何百万もかかつて、しかもその後どうやって生きてくかということもなんにもわからなくて、結局僕はやめて、早くなんとかしないとごっついおじさんになっちゃうなっちゃうって思いながら、今なっちゃうたんですけれども、そんなストレスの中で、生きてました。芝居の養成所に行つて、進級できなくて、グレてやる！ 酷い目にあつてやる！ って思つて、新宿二丁目のバイトに行つたんですが、何ひとつ危ない目に合うことなく、友達だけが増えました。そのあと、芝居をずっと続けていたんですけど、落ちたら芝居をやめると思つていたオーディションに落ちて、ちゃんとした仕事に就こうと思つたんです、ボーナスをもらつてる仕事に就く、と思つたときに今の劇団を始めることになって、僕はまだ未だかつてボーナスという物をもつたことはありません。世田谷区は同性婚が認められていて、^{*3}渋谷なんかもあるんですけども、社会的に認められることがとても重要なんだなあ、っていうことを

ちよつと遠くから見るとような気持ちで感じています。僕は今、そういうパートナーがいらないから、同性のパートナーに対しての福利厚生っていうのも認められる、結婚しなきゃいけない、結婚するところんな優遇されるよつていう中で、じゃあひとりでは生きていけないのかしら、っていうことを、すごく思います。結婚つていう制度、好きな相手と一緒にいたい、お互いに助け合つて支え合つてくつてことはとても大事なことだし、必要なことだと思ふんだけど、じゃあひとりでは生きていけないのかな、つて思うと、とても、どうなんだろうと思います。今は、ひとりでも、働かなくちゃ働かなくちゃ、ただもう働かなくちゃ、つていう三人姉妹のイリーナのような気持ちです。働いて働いてということ、で一生終わつていくのかな、つていうことを考えています。僕は今ゲイだつていうことを、強く言つてるんですが、そのこともだんだん年齢が重なつていくうちに、生きていくつてことの横に置けるようになった。ぼくはそんな今がとても面白いんじゃないかなと思つています。

*1 東郷健：一九三二年～二〇二二年。ゲイ雑誌「The Gay」を創刊し、同性愛者であることを公言して、政治活動にも注力した。

*2 おすぎとピーコ：一卵性双生児の弟で映画評論家のおすぎ（一九四五年～）と、兄で主にタレント及びファッション評論家のピーコ（一九四五年～）は、同性愛者であることをカミングアウトしている。

*3 二〇一五年十一月五日、渋谷区に続いて世田谷区は、同性カップルの関係を結婚に相当するパートナーシップと認める証明書の発行した。

おわりに

『地域の物語』は、世田谷パブリックシアターが開館から二〇年近くにわたって実施している事業で、その年ごとに設定されたテーマに集まった一般の人々が、ワークショップのプロセスを通じて発見したこと、誰かに伝えたいと思ったことを、演劇の形式に取りまとめ、劇場で発表するという行為を通して、自分たちの「こえ」として地域に住む人々に手渡していくというプロジェクトだ。

ワークショップが始まるとき、参加者たちの「こえ」は、日記に吐露するような限りなくプライベートな体験や想いに留まっていることが多い。しかし、それをワークショップで語るとき、参加者は複数の人が集う場で共有されるべき「こえ」となるように配慮をし、劇場スタッフはそうした「こえ」を成立させる場づくりに努力する。

そうすることに注意を払うようになったのは、演劇ワークショップの進行役をしているイギリス人と、「プライベート」と「パーソナル」について話してからのことだ。日本では「プライベート（私的）」な話と「パーソナル（個人的）」な話の区別があまりなく、プライベートな話が比較的、無自覚に「パブリック（公的）」な場に持ち込まれるのではないか、イギリスではプライベートとパーソナルを区別すると言われたのだった。私が、演劇ワークショップをセラビィの場だと思って来る人が最近多い、と言ったことへの返答だったように思う。

つまり、複数の人々が共に作業を進めるという点で、パブリックな場である演劇ワークショップに、他人と共有する意味のあるパーソナルな話を持ち込むことは適切であっても、プライベートな話を持ち込む場合には配慮が必要だということである。付け加えると「プライベート」の反意語は「パブリック」で、公ではないという意味合いであるのに対し、「パーソナル」の反意語は「ソーシャル」で、その人個人の特性・特徴を示し、公であることと両立する。

もちろん、クローズドで長期間にわたるワークショップでは、パーソナルな話とプライベートな話が混然一体となり、判別をつけずに提示されるときもある。それでも、自分の欲のために相手を消費するのではなく、互いを思いやりながら差し出されたプライベートな話は、徐々にそのかたちをパブリックなものへと変えていく。

今回、ここに収められている「こえ」たちは、主に二つの方法で集められた。一つは、ワークショップで本人が語ったこえを、そのまま書き起こしたものである。これは本人が他者（受け手）を想像しながら「パブリックな空間」で発した「パーソナルなこえ」といえる。もう一つは、ワークショップで発せられたこえを受けとったほかの参加者が、自分の印象を加味して書き起こしたものである。これは「パーソナルなこえ」を受け止めた視点を、再び「パブリックな場」に投げかけたこえとなる。

そうして音から文字となり、アーカイブされたこの冊子の「こえ」に共通するのは、他人に伝えるために語られ、そして語り直された「パブリックを意識したこえ」だということだ。つまり『地域の物語』とは、そのワークショップのプロセスにおける参加者個々のさまざまな思いや発見を、「パブリックな場」

に置くことへと転換していく試みであり、それは自分以外の周りの人々、他者について想像する試みともいえる。自分の言いたいことを言い放つ場ではなく、伝える場なのである。

このような場を設定するのは、実は簡単ではない。語り手が他者を想像し、また相手としての観客が語り手を想像するためにはどうすればよいか。毎年、試行錯誤する中で、何らかの問題意識に関連するテーマを設定することを考えるようになった。そうすれば、参加者も観客も、そのテーマに興味を持っている人々になり、発表会での「伝え／受け取る」というやりとりが行われるコミュニティが比較的やすつくつくれるように思われたからである。

そうして、前回（二〇一四年、二〇一五年）に引き続き進行役をお願いした花崎攝さん、山田珠実さんと話し合う中で、「女性」という切り口が出てきた。性別なのか、ジェンダーなのか、マイノリティーなのかなどをとっても、「女性」を取り巻く事象・言説には、語るべきことがいくつもあるように思われた。その後、「男性」を排除することの是非や、性自認がどちらでもない人をどうするのかについて話し合ったが、とりあえず「性自認が女性」の人を対象とし、女性のあり方に先入観を持たずにワークショップを実施してみようと、「生と性をめぐるささやかな冒険〈女性編〉」をやることになった。〈男性編〉については、翌年にでも改めて考えていくつもりだったが、進行役の柏木陽さんが興味があると言うので、そうであればと急遽〈女性編〉と同時並行で実施をするべく企画を始めた。もう一人の進行役は関根信一さんをお願いしたいと〈女性編〉を決めたときから考えていた。

当初、性別二元論に思われるかと懸念していた区分けであったが、区分けは暫定的なものとして、集まった人々がグループのありようを受け入れるなかで、さまざまな「こえ」が交わされる場となった。その多くは、概要に記載したワークショップの中で発せられたもので、順不同での掲載となっているが、読んでいただくと分かるように、「よっしー」と「せっきー」に関する聞き書きが多く収められている。

よっしーは二〇一六年の〈女性編〉の最中に、病気が再発した。母ひとりで子どもふたりを育て上げた、とうちゃんかあちゃん、のよっしーの話を書き留めたいという要望が参加者から出て、聞き書きの回が設けられた。よっしーは恋の話をしてくれた。〈男性編〉からは、ゲイであることをカミングアウトしている「せっきー」の話が聞きたいという要望が出た。

せっきーの聞き書きには、次のようにある。

「男性」であることや「女性」であることは、そのうちに、その中に、さまざま多様性があり、グラデーションとなっている。そのようにして、私たちは「性」を生きているんじゃないか。

この「こえ」のもと、二〇一七年も私たちは「生と性をめぐるささやかな冒険」を続けている。

恵志美奈子（世田谷パブリックシアター劇場部学芸）

語り手、書き手のプロフィール

〈女性編〉

いけまな

「アットホーム♡」な職場がどうにもダメで

一人で歩く検針の仕事長くやってる。繊細な気配りが大変に上手で

舞台では少年のような吊りズボン姿（ひざ丈）がまるで違和感なかったのです

いまむー

二〇代前半の大学院生、人権について研究中

気づかいのひと。踊るひと

ここぞというときに、いかしたセリフで皆を盛り上げてくれる

かよこ

にやにや クール モノトーン

虫愛づるバフォーマー

生活のためじゃなく「表現」のためなら、知恵も時間も体力もつくせる人

くりちゃん

お若いのに、教え上手な頼れる先輩

まっすぐまっすぐ、まだまだ急成長中

今日もやぎさんゆうびん、かいているかなあ？

さいとー

大変、努力家。おしゃれ研究中

山の植物のようなたたずまい、かわいい人です

その生声は心の叫びを人の心に突き刺すように届けます

ナオコ

色白で、控えめで、物静かな語り口

実は雇用機会均等法の元、バリッバリに働いたキャリアウーマン

マイクを握ったら、その約変ぶりにびっくり！

なかちゃん

あの歌手名前なんだっけ？ というときは記憶力ハンパないこの人にきくべし

障害をもつ立場から、社会にも申す女性

その原動力は、「ありのままに生きること」

ニケ

勉強が好き

状況をすばやく察して場をまとめられる賢い人。政治家になればいいのに

方言もかつこいい。でも、どこかユーモラス

ふくちゃん

なんでも記録する孤高のメモ魔。メモとる姿は鬼気迫る

こまかなところに目がとどき、人にも自分にも嘘をつかない正直者

油断すると食事をとりそこねる。食は味より栄養素

ボラン

ふわふわチリチリ 漆黒のロングヘアー

少女のような笑顔の少年院の国語の先生

宮沢賢治大好きボランです

まちこ

相棒（電動車いす）にまたがり疾走する自称 Doujin 乙女

第一印象はおとなしいが、ひとたび口を開けば、その発言はハプニング&サプライズ
みんなと呑むお酒は至福のひとつ。笑いのツボは浅い

さき

家族思いのやさしいママ

だけど、ダンスと羽生結弦くんに関しては、別

自分の世界にはわがママよ

せつ

無限に広がる人脈ネットワークをもつ

おそらく宇宙とも霊界とも交信している

にこやかに、楽しい話も悲しい話も受けとめる聞き上手マイスター

たまちゃん

やわらかいけど、芯はしっかり

身体についての色々な発見を日々分けてくれるから、

会うたび健康になる気がします。ときどき残っている寝癖もチャームینگ

チャコ

どんなに仕事ハードでも、完璧なメイクとハイヒールで

身体が痛くても、心が痛くても、背筋ピン！で闊歩する

カッコかわいい大人の女性

ともちゃん

トレッドマークはカラフルベレー帽

古き良き歌を愛し、好きなものを語るときは、キラキラすごく美しい

言いたいことは、言う！ 嫌いなことは、嫌い！ ほめるときは、目いっぱい！

ありのままの私で、華々しく登場

なお

豊富な知識とあふれるアイデアで、リーダーシップ抜群

気さくなムードも、あえての策かもしれない

王子様役が似合う

まなみ

まあるくって、やわらかくって、愚痴もかわいい女子力

興味ひかれれば、どこにでも出かけて行く行動力

キックは鋭いので、きをつけて！

みほ

地域の物語2016のおしゃれ番長&恋愛番長

「初めてのセックス」はお手本のようなある話で、教科書に載せたいと思います

ワークショッパに通っていたら、お昼もおなががすぐ健康体になったそうです

めぐちゃん

いつも、嬉しそうな笑顔をふりまいていて、かわいくてチャームینگ

限りなく白に近いピンクの、ふわふわワンピースがとても似合いそう

言語障害で聴き取りづらい仲間の言葉を、他のワークショッパのメンバーに伝えてくれる

ゆきこ

硝子のハートのビッグバード

語りは繊細、踊りはダイナミック！

お酒は、イケるクチらしい

よっしー

女手ひとつで二人の息子を育てあげた大きな愛情

お母さんにいっぱいいの幸せを注がれたからこそ自己肯定感

でも父ちゃんに愛してもらったか、その思いが「穴」になっている

〈男性編〉

祝大輔

夢や希望を追いかけて

愛や現実を見つめる映像作家

レンズを通した瞳の奥に情熱を秘めています

オカさん

ダンディなおじさまかと思いきや

家族思いのババさんでした

ユニークな視点で演劇に立ち向かう学校の先生

かつしー

快活で陰鬱な、教養のあるおっさん

髪が伸びてくるともじゃもじゃしてきます

人と人との間で複雑に絡み合う、彼の生き様を象徴しているよう

きいちゃん

学生時代の写真のイケメンぶりに息を吞みました

フットワークの軽さが素敵なおじさま

一夜の恋も領けます

けん

愛いを帯びた表情が印象的

過酷なバイトの話には涙

もつと色々話してみたい余白が魅力です

タニー

演劇を熱く語り実践する学校の先生

時折り見える関西人のノリと

甥っ子をかわいがるおじさんの二面性が味わい深い

たばた

大きなカラダはそのまま巨大草食動物のよう

もしかしたら絶滅してるかもしれないつかしき

繊細なハートが奥の方に入ってます

たんぼ

男性編お色気部門代表です

たたずまいもトークも色っぽい

大人の魅力のおじさまです

てるぼ

なんというかまっすぐに惹かれます

物腰の柔らかさと話す内容のギャップに萌えます

その確信犯ぶりも素敵です

にらだい

とにかく気が小さい、気付かないうちに傷だらけ

特に肌が繊細なので、ひげそりした後は血だらけ

でも、そうは思われない

やまも

ババなんだということにびっくり

気がつけば身近にいる若ババ代表

鼻筋の通った横顔が涼しげです

ジェリー

登山やマラソンも軽やかにこなす

年齢を超えるフットワークの軽さの持ち主

ナイーブな内面を徐々に出してます

しげもり

性と芸の探求者と尊敬の念を込めて呼びたい

セクシーなスキンヘッドのお兄さん

知らない世界をたくさん見せてくれました

ジャスマン

大阪のおばちゃんか！と見紛うばかりのファーコート

いろいろな揺らぎをそのままに

知的なメガネとのコーディネートも抜群

しら

会うたびに違う女性の話を聞かせてくれる

モテモテなお兄さん

大きなカラダがとてもセクシー

すみた

ミニスカートが良く似合う

いろいろな謎に満ちたひと

そしてとても正直なひとです

せつきー

体はオジさん、心はオバさん

重そうな体に、ポップな口調が、心を浮かす

心の壁を押し開き、自由に世界を舞っている、歌って踊れる劇作家さん

吉田

ワークショッパで語った恋愛相談

カブトムシを見るたび思い出します

おじさんたちに人生を誤らされなかったか、気になってます

わっち

世界を一周してきた旅人

愛すること愛されることが苦しみと幸せと

まっすぐに優しいハートを持っています

*本プロフィールは、「地域の物語ワークショッパ2016」の参加者が、他の参加者のことを3行で紹介したものです。

生と性をめぐるささやかな冒険

本プロジェクトは、以下のワークショップの一環として実施したものである。

地域の物語 ワークショップ2016

〈女性編〉

参加者 いけまな、かよこ、くりちゃん、さいとー、サキ、チャコ、ともちゃん、なお、
ナオコ、なかちゃん、ニケ、ポラン、まいこ、まちこ、まなみ、まりあ、みほ、
めぐちゃん、ゆきこ、よっしー

進行役 花崎攝、山田珠実

生と性をめぐるささやかな冒険

2016年

1月10日(日)、11日(月・祝)、17日(日)、23日(土)、30日(土)、31日(日)
2月7日(日)、20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)
3月5日(土)、6日(日)、12日(土)、13日(日)、19日(土)、20日(日)、21日(月)
4月10日(日)

生と性をめぐるささやかな冒険 聞き書きワークショップ

2016年

5月15日(日)、29日(日)

生と性をめぐるささやかな冒険 〈夏の女性編〉

2016年

7月16日(土)、17日(日)

〈男性編〉

参加者 祝大輔、オカさん、きいちゃん、けん、ジェリー、しげもり、ジャスミン、しら、
すみた、タニー、たんば、てるば、吉田、わっち

進行役 柏木陽、関根信一

アシスタント 山本雅幸

生と性をめぐるささやかな冒険 〈番外編〉

2016年

2月29日(月)、3月7日(月)、20日(日・祝) or 21日(月・休)、4月4日(月)、11日(月)

生と性をめぐるささやかな冒険 〈夏の男性編〉

2016年

7月4日(月)、11日(月)、25日(月)

生と性をめぐるささやかな冒険 聞き書きワークショップ

2016年

12月5日(月)

地域の物語 アーカイブプロジェクト 2016

生と性をめぐるささやかな冒険

発行日 2017年3月24日
発行 公益財団法人せたがや文化財団
世田谷パブリックシアター
〒154-0004
東京都世田谷区太子堂4-1-1
Tel.03-5432-1526
<http://setagaya-pt.jp/>

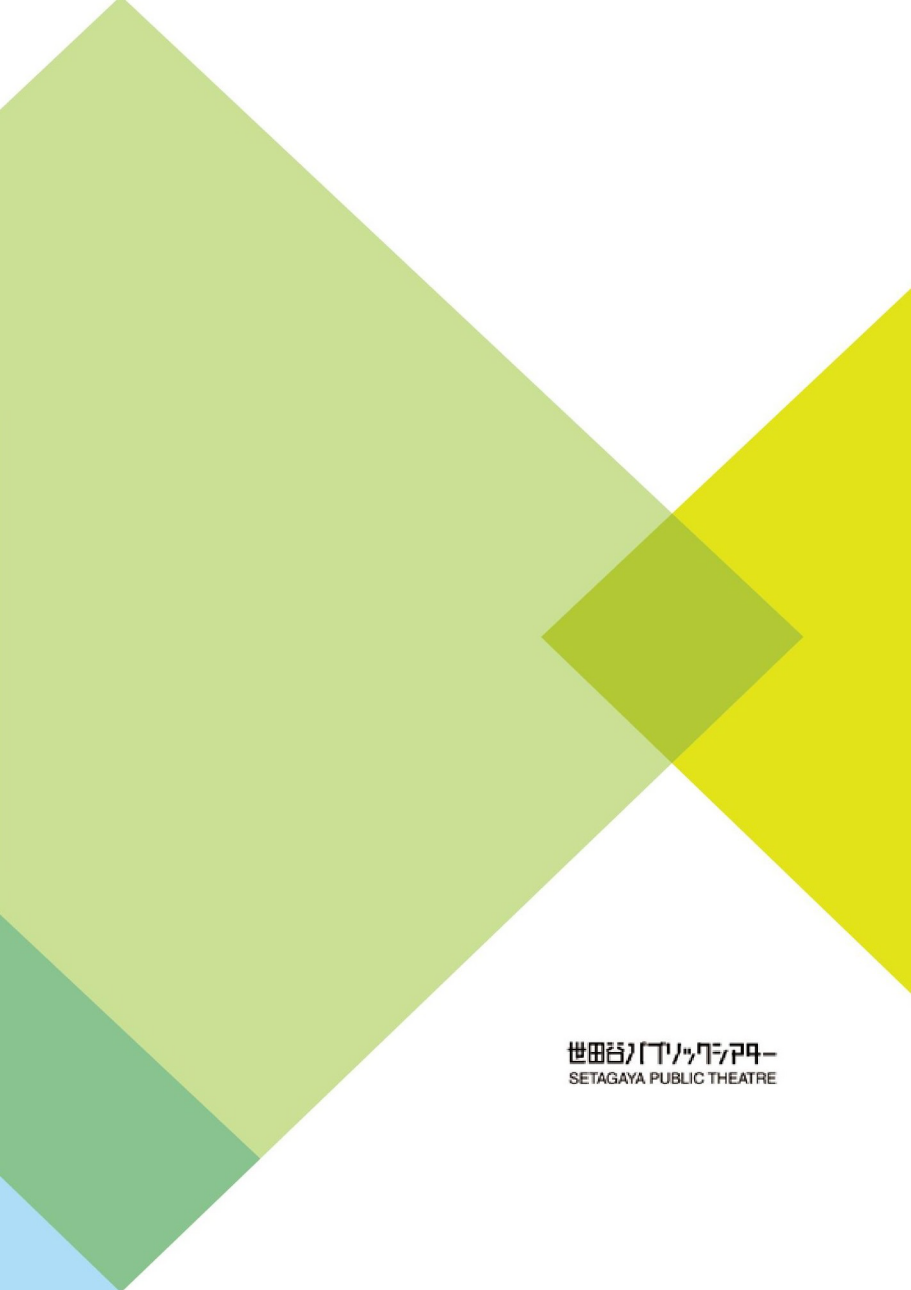
企画 世田谷パブリックシアター学芸
(恵志美奈子、九谷倫恵子、田幡裕亮、福西千砂都)

編集 大谷薫子(モ・クシユラ株式会社)

デザイン 松永路

製本・印刷 株式会社リヒトプランニング

協賛 **TORAY** 東レ株式会社
後援 世田谷区



世田谷パブリックシアター
SETAGAYA PUBLIC THEATRE